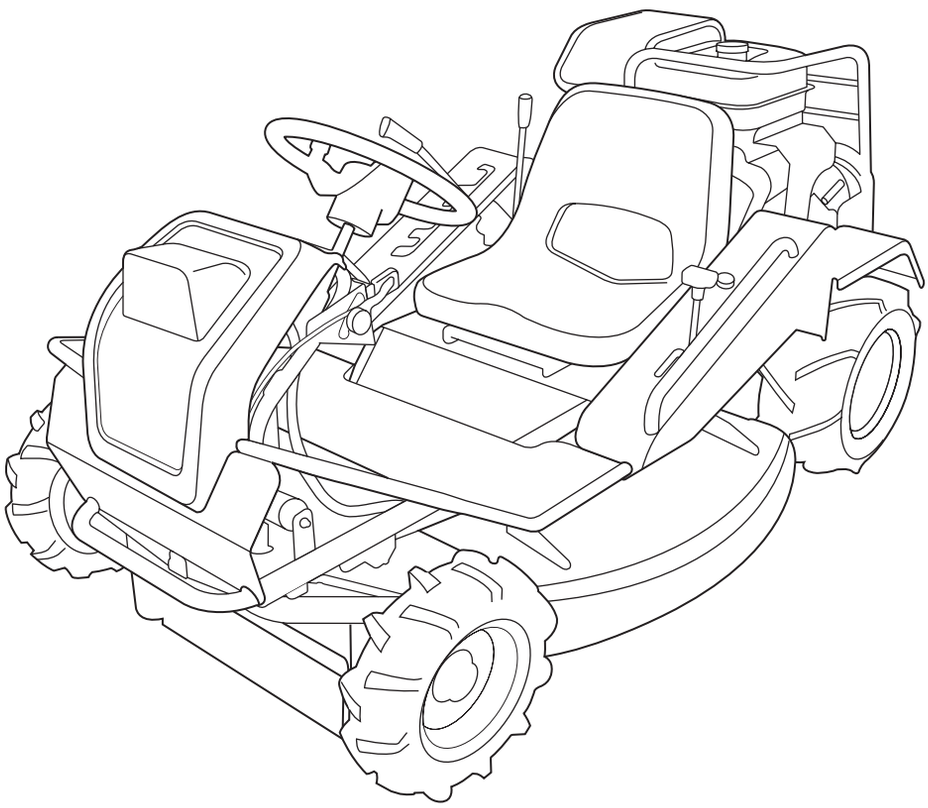
CANYCOM

草刈作業車
CM141・142

取扱説明書



⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
・本書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも参照できるように大切に保管してください。

5343 5201 001 01

株式会社 筑水キャニコム

〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1
TEL (0943)75-2195（代）　FAX (0943)75-4396

株式会社 筑水キャニコム

http://www.canycom.co.jp/

■本社営業本部　TEL 0943(75)2195　FAX（75）4396
■東京国際センター　TEL 03(3552)6255　FAX (3552)6288
■東北センター　TEL 022(281)1255　FAX (281)3141
■関東センター　TEL 0270(63)8011　FAX（63）8012
■関西センター　TEL 0790(42)6031　FAX（42）6035
■中・四国センター　TEL 0824(34)5996　FAX（34）5997
■九州センター　TEL 0943(76)2583　FAX（75）5126

連絡先控え（販売店名）

本書の無断転載、複写を禁止します。

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。
また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。
なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

⚠ 警　告

- 本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
- 本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- 本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

本製品について

⚠ 警　告

- 本製品は草刈作業車です。草刈作業以外の用途には使用しないでください。
- 本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- 本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。
- 本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

警告用語について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警　告　用　語	意　味
⚠ 危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠ 警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠ 注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

リース（レンタル）業者の皆様へ

⚠ 注　意
・本製品を他の事業者または個人に貸し出す際には、取り扱い方法を明確に説明し、使用の前に本書を必ず読むよう指導してください。

保証とアフターサービスについて

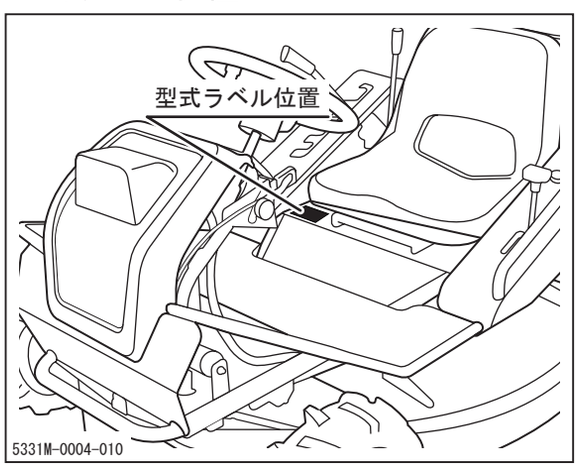
保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

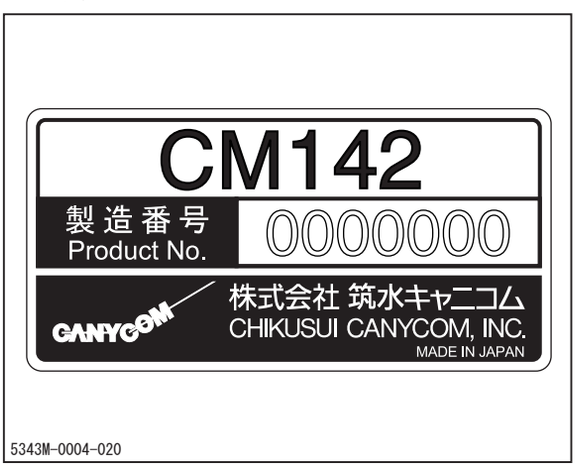
アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。
搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の**「本製品の仕様」**を参照してください。（☞12ページ）

型式ラベル位置



型式ラベル



補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年とします。

目　　次

１．安全に関する注意事項　1

本製品に添付してある警告ラベルについて ・・・・・・・・・・・・ 1

本製品に装備されている安全装置について ・・・・・・・・・・・・ 2

安全運転・作業のための心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

運転前の心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

運転のしかた ・・・

走行装置 ・・・

保証書

本書の巻末に添付

※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

付録

・エンジン取扱説明書

※本書とあわせて必ずお読みください。

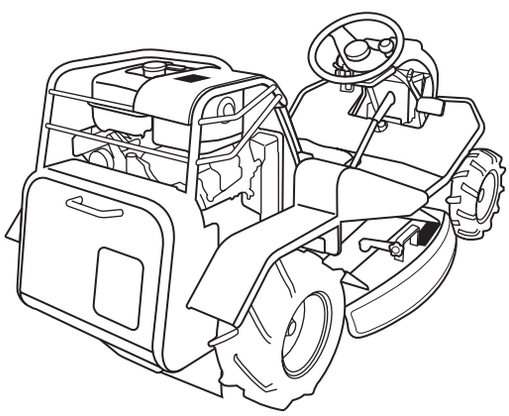
本製品に添付してある警告ラベルについて

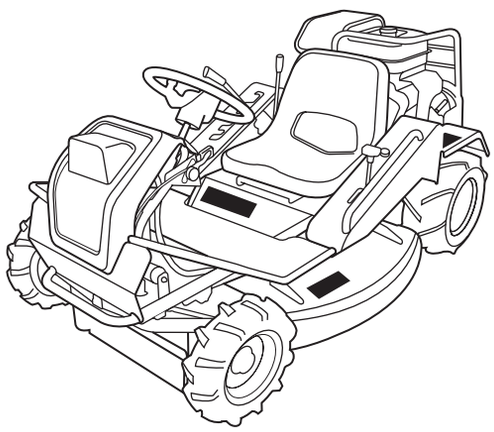
本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。
この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

・警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。

・警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。

・警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。

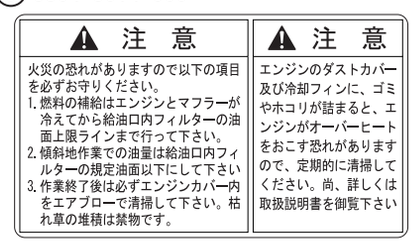




① 5321 5025 000

② 5306 5015 000

③ 5304 5014 000



④ 3655 6015 000

1 安全に関する注意事項

本製品に装備されている安全装置について

本製品には以下の安全装置が装備されています。

始動安全装置

ブレーキペダルを踏み込み、刈刃クラッチが「切」の状態でのみエンジンが始動します。
エンジン始動の際に車両が暴走したり、刈刃が回転したりすることによる事故を防止します。

刈刃自動停止装置

刈刃回転中にシートを離れると、エンジンが停止します。
車両が転倒した場合等に回転する刈刃による事故を防止します。

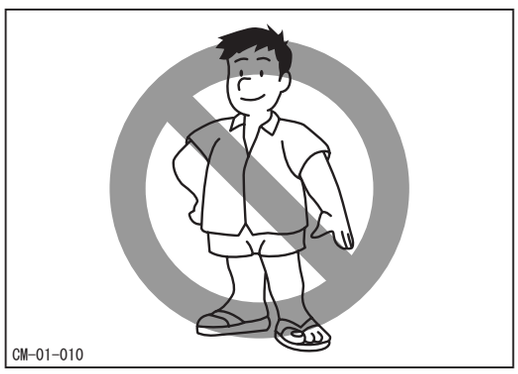
車両自動停止装置

走行レバーでの走行時にブレーキペダルをふむと、走行レバーが「 ● （中立）」に戻り、
車両が停止します。

安全運転・作業のための心得

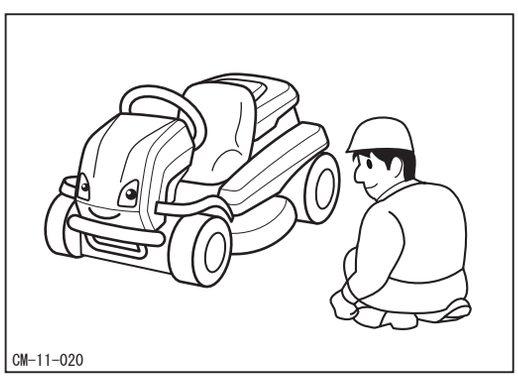
運転・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転・安全作業を心がけてください。

運転前の心得



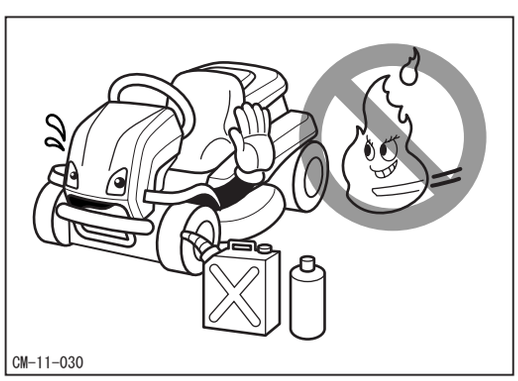
正しい服装と保護具の着用

運転・作業にふさわしい服を着用し、軽装やサンダル履き等で運転・作業をしないでください。また、ヘルメット、保護靴、保護めがね、手袋等の保護具を着用してください。



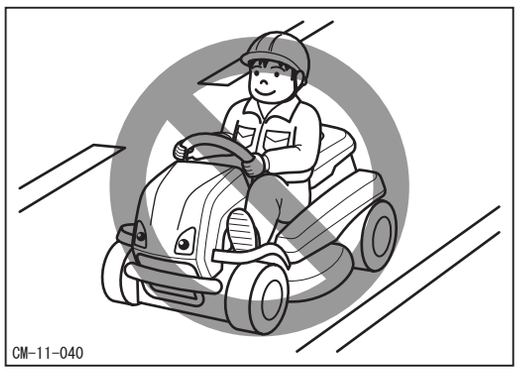
始業点検の励行

運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。
また、車両に堆積した草等はきれいに取り除いてください。火災のおそれがあります。

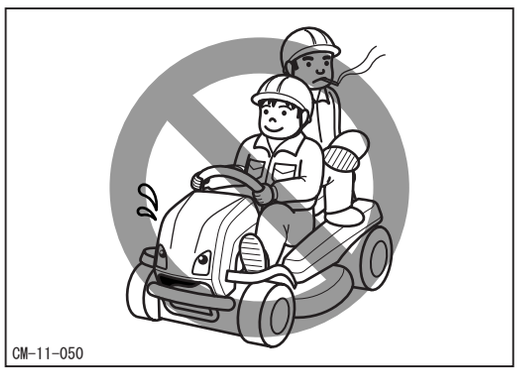


火気厳禁

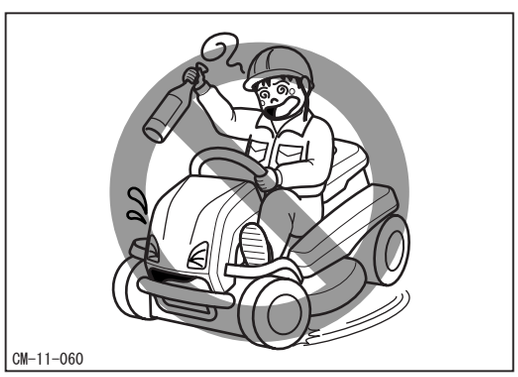
燃料・油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。
また、給油は必ずエンジンを停止した状態で行なってください。



公道乗車禁止
本製品は公道および公道とみなされる道路での運転はできません。

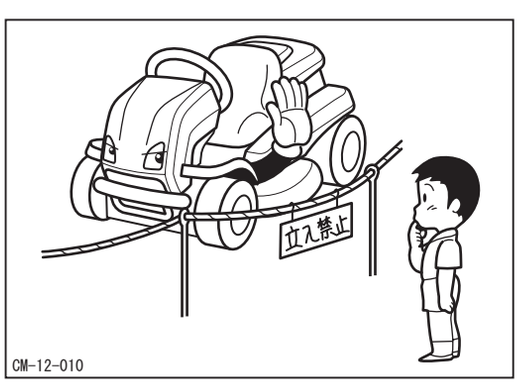


同乗禁止
本製品は一人乗りです。運転者以外は乗せないでください。

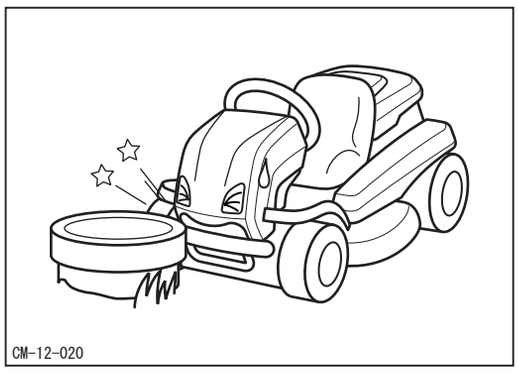


無謀運転禁止
飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない人による運転・作業も行わないでください。

運転・作業時の心得

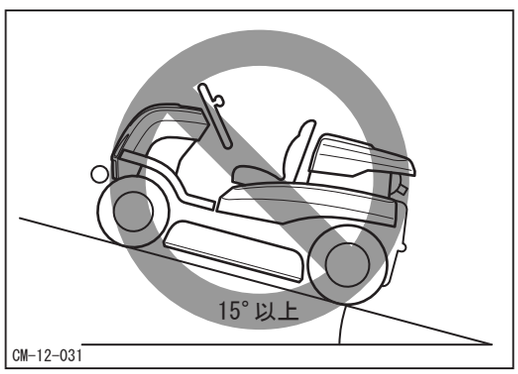


作業中の安全確保（立入禁止）
運転・作業時は本製品の周辺に人（特に子供）を近づけないでください。
必要な場合には、草刈作業中であることを掲示し、ガードロープを張る等してください。



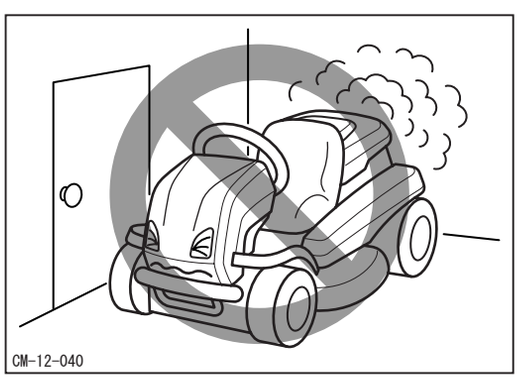
穴・溝・障害物等に注意

運転・作業の前に必ず穴・溝・障害物等を確認し、十分に注意して運転・作業を行ってください。



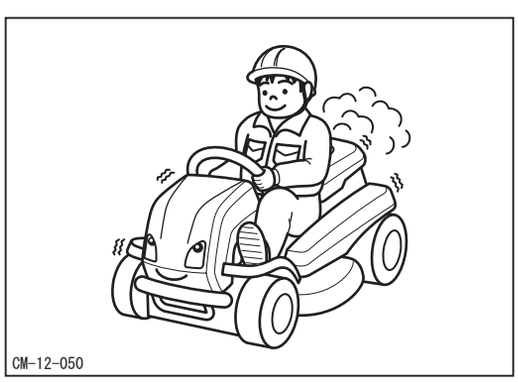
急傾斜地での使用禁止

運転・作業の前に必ず斜面の角度を確認し、15° 以上の傾斜地では運転・作業を行わないでください。



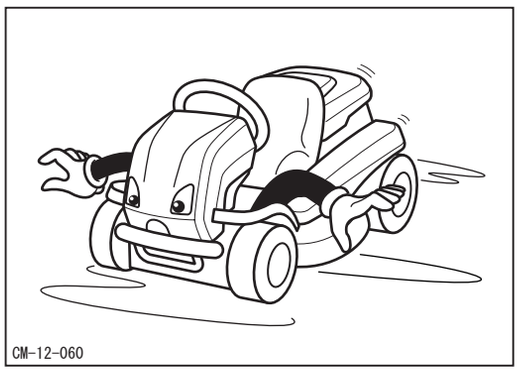
換気の悪い場所での始動・運転禁止

エンジンの始動・運転は必ず換気のよい場所で行なってください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。



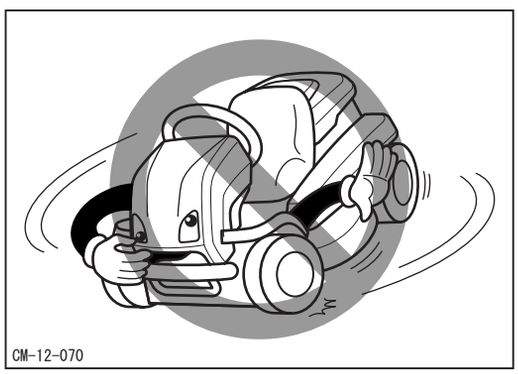
始動は乗車して行なう

始動は必ず乗車して行ってください。降車状態での始動は万一の場合に車両にひかれるおそれがあります。


CM-12-060

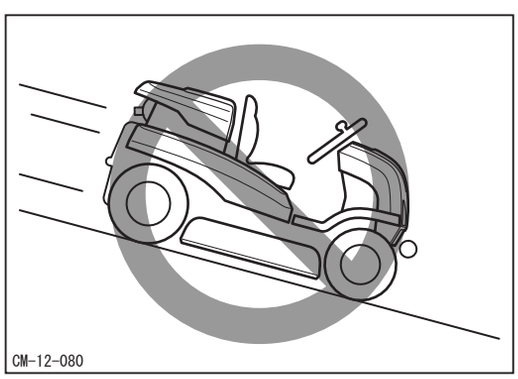
安全速度遵守

発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は路面の勾配や状態に応じた安全速度で走行してください。


CM-12-070

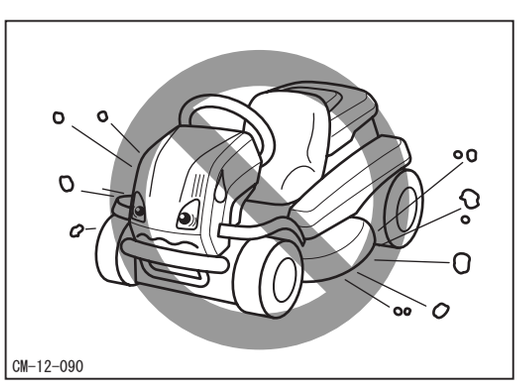
急発進・急加速・急旋回・急停止の禁止

急発進・急加速・急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。


CM-12-080

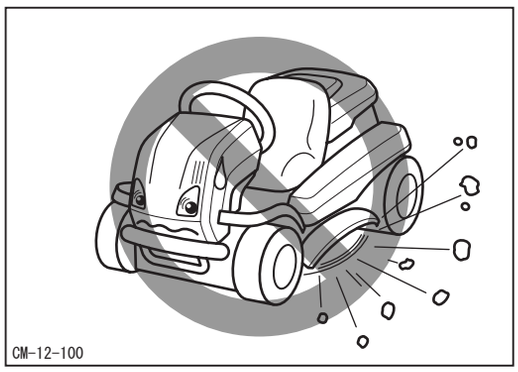
傾斜地での注意

傾斜地では低速で走行・旋回してください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。


CM-12-090

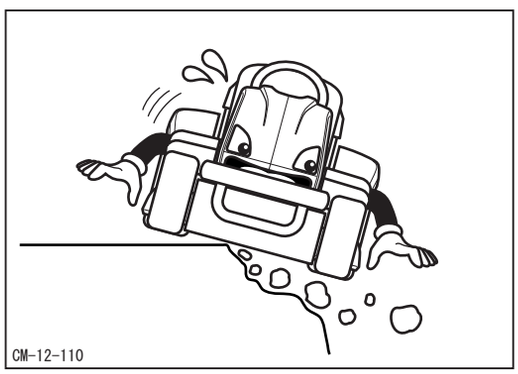
周囲へ配慮する

小石等の異物の飛散により、人や動物、農作物、建築物、自動車等へ被害を及ぼさないように十分に注意して作業を行ってください。



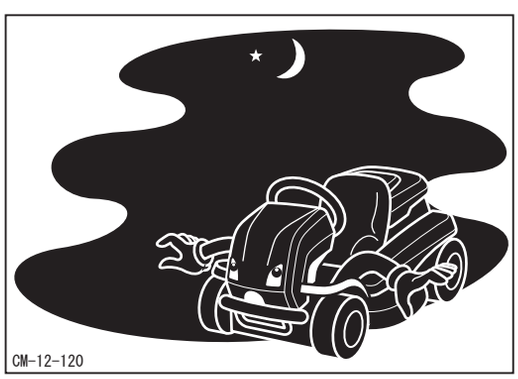
刈刃カバーを開けての作業禁止

刈刃カバーを開けたまま作業を行わないでください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。



路肩の崩れに注意

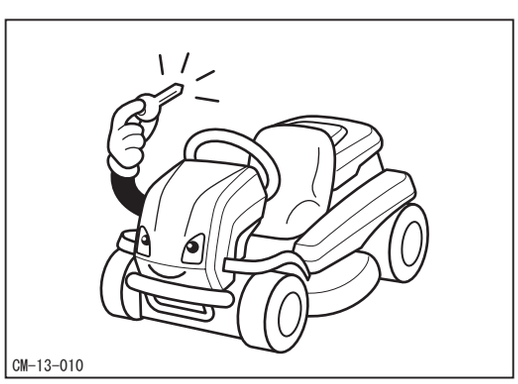
溝や土手の端は作業を行わないでください。路肩が崩れるおそれがあります。特に降雨後や地震後は注意してください。



夜間の作業禁止

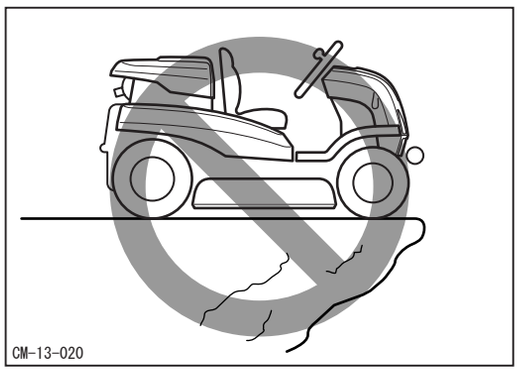
本機は昼間作業専用です。夜間や照明が悪い場所では作業を行わないでください。特に草地では障害物などが見えず危険です。

駐車時の心得



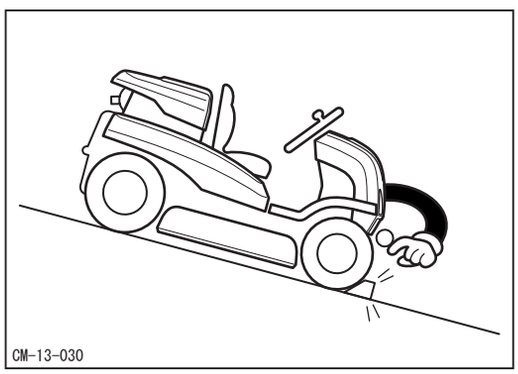
駐車時の安全確認

駐車時は必ず駐車ブレーキをかけ、キーを抜き取ってください。



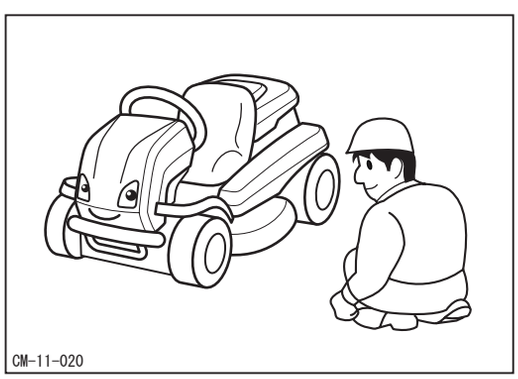
危険な場所での駐停車禁止

駐停車時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。
また、燃えやすいものの近くには駐停車しないでください。



傾斜地での輪止め励行

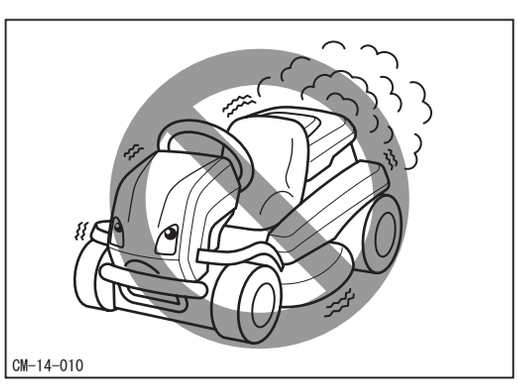
傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、輪止めをしてください。



使用後の清掃の励行

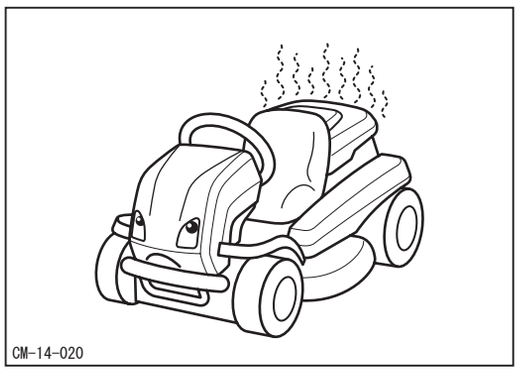
使用後は、車両に堆積した草等をきれいに取り除いてください。火災のおそれがあります。

整備時の心得



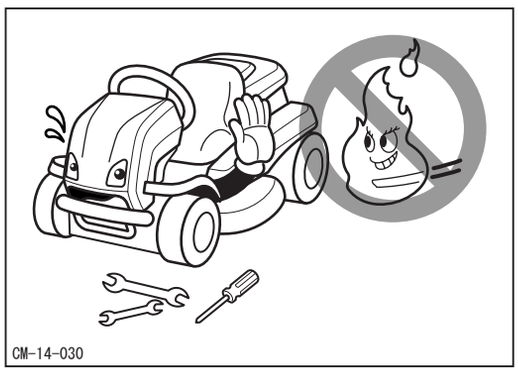
点検・整備時エンジン停止

点検・整備時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。


CM-14-020

やけどに注意

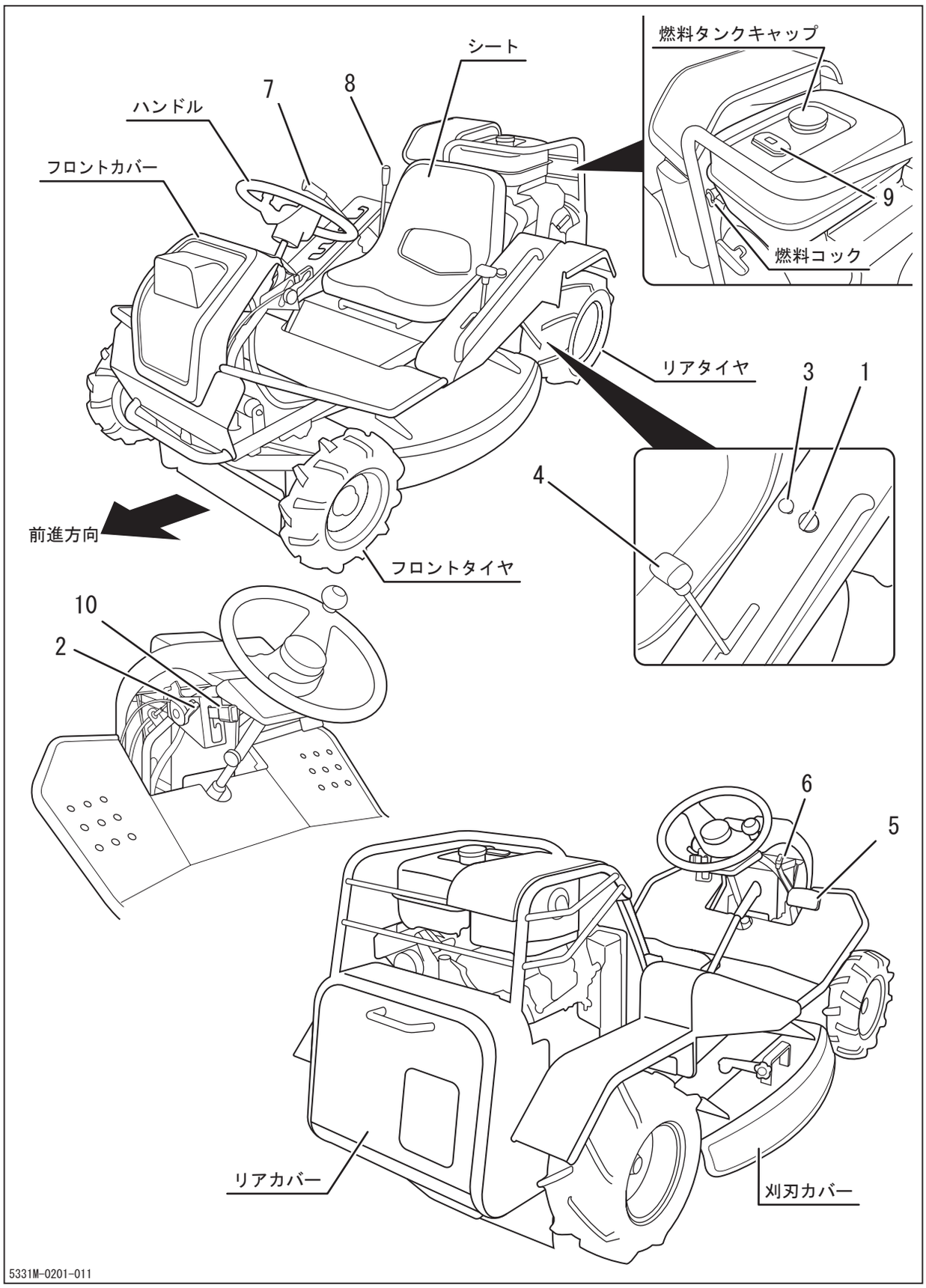
エンジン停止直後は各部およびオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。


CM-14-030

火気厳禁

エンジンの整備時やバッテリの充電時は、火気を近づけないでください。

各部の名称とはたらき


燃料タンクキャップ
シート
7
8
ハンドル
フロントカバー
9
燃料コック
リアタイヤ
3
1
4
前進方向
フロントタイヤ
10
2
6
5
リアカバー
刈刃カバー
5331M-0201-011

各部の名称とはたらき　2

1　**メインスイッチ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンを始動および停止するときに使用します。

2　**アクセルレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジン回転数を増減するときに使用します。

3　**チョークノブ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンを始動するときに使用します。チョークバルブの開閉を行います。

4　**走行レバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥車両を走行するときに使用します。レバーを前方へ倒すと前進し、後方へ倒すと後進します。レバーを倒す角度により走行速度を無段階に調整します。

5　**ブレーキペダル** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥車両を停止するときに使用します。ペダルを踏むと走行レバーが中立に戻り、ブレーキがかかります。

6　**駐車ブレーキレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥車両を駐車するときに使用します。ブレーキペダルを踏み込んだ状態でレバーを手前に引くとブレーキペダルがロックされます。

7　**刈高さ調節レバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥刈刃を上昇または下降するときに使用します。ＣＭ１４１は5段階、ＣＭ１４２は0～80㎜の間で無段階に調節できます。

8　**刈刃クラッチレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥刈刃を回転および停止するときに使用します。

9　**燃料計** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥燃料の残量を表示します。

10 **デフロックレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥後輪がスリップするときに使用します。レバーを「入」にするとデフロックの状態になります。
（デフロック仕様）

3 製品仕様

本製品の仕様

⚠ 注 意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名称・型式				CM141	CM142
機械質量			kg	275	
作業能率			m^2/h	4500	
機械寸法	全長		mm	1820	
	全幅		mm	970	
	全高		mm	835	
	ホイールベース		mm	1230	
	トレッド	前	mm	820	
		後	mm	755	
	最低地上高		mm	100	
エンジン	名称			ロビン EX40DS	
	形式			空冷4サイクル傾斜形単気筒OHC式ガソリン	
	シリンダ（内径×行程）		mm	89×65	
	総排気量		cm^3	404	
	最大出力		kW(PS)/rpm	10.3(14.0)/3600	
	最大トルク		N･m(kgf･m)	27(2.7)	
	始動方式			セルフスタータ・リコイルスタータ式	
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン	
	燃料消費率		g/kW･h(g/PS･h)	400(297)	
	燃料タンク容量		ℓ	7.0	
	点火方式			無接点式マグネト点火	
	点火プラグ品番			NGK BR6HS	
電装	バッテリ形式			40B19R	
	バッテリ電圧		V	12	
	バッテリ5時間率容量		Ah	28	
車両性能	走行速度		km/h	0～10.0	
	最小回転半径		m	1.9	
	登坂能力		度	15	
	最大安定傾斜角度	左	度	30	
		右	度	30	

名称・型式				CM141	CM142
走行装置	駆動形式			2WD	
	主変速形式			ＨＳＴ（無段変速）	
	タイヤ	前輪		AGR 3.50-7（2PR）	
		後輪		16×7.00-8（2PR）	
	ステアリング形式			ラック＆ピニオン	
	ブレーキ形式			内拡式ブレーキ	
刈取装置	刈幅		mm	915	
	刈高		mm	0～65（5段階）	0～80（無段階）
	刈刃形式			フリーナイフ＆段付ステー	
	刈刃枚数		枚	2	
	刈刃駆動方式			シャフト駆動	

※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

付属品明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書	1	本書
2	エンジン取扱説明書	1	
3	エンジン工具	1	エンジン整備用
4	プレート	1	手押し用
5	かんたん操作ガイド	1	

オプション

種別	名称	備考
集草機	スィーパー38	専用ヒッチ付き*1

*1 ご注文時にCM141/142用とご指定ください。

運転前の準備

始業点検

⚠ 警 告

・運転の前には、必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください

・車両に堆積した草等はきれいに取り除いてください。火災のおそれがあります。

運転前には必ず始業点検を行ってください。
点検の要領については**「定期点検表」**（☞28ページ）を参照してください。

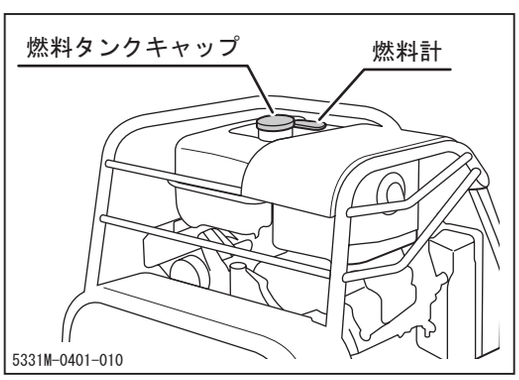
燃料の点検と補給

⚠ 警 告

・燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。

・給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。

・給油は油面上限（給油口内フィルタ上面）以下になるようにして、給油口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。



1. 燃料計を確認し、燃料が不足している場合は、燃料を補給します。
2. 燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。
3. 燃料タンクキャップを確実に閉めます。

アドバイス

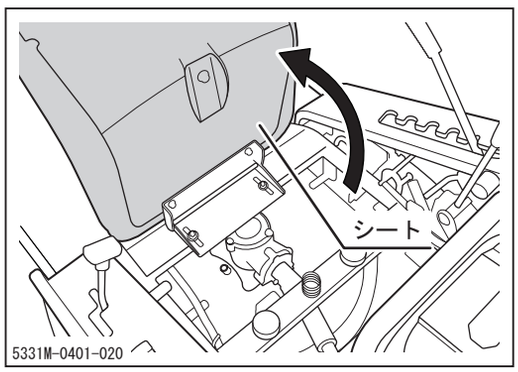
・使用燃料：自動車用無鉛ガソリン
・燃料タンク容量：7.0ℓ

シートの調節

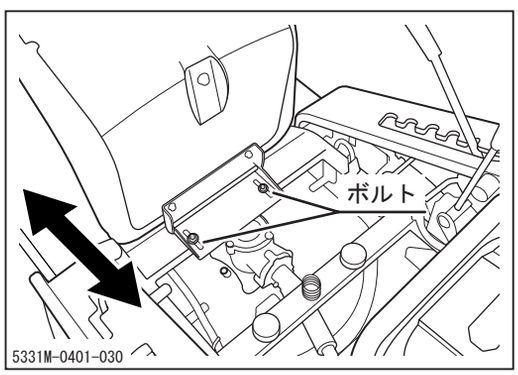
⚠ 注 意

・調節時に手や指をはさまないように十分注意してください。

・調節後は、シートを前後に動かし、確実に固定されていることを確認してください。



1. シートを持ち上げます。



2. ボルトを緩めシートを前後にスライドさせて調節します。
3. 調節後、ボルトを確実に締めます。

運転のしかた

始動のしかた

⚠ 警 告

・エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。

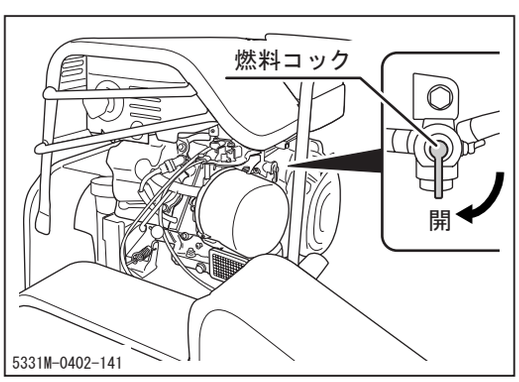
・始動は必ず乗車して行ってください。降車状態での始動は万一の場合に車両にひかれるおそれがあります。

⚠ 注 意

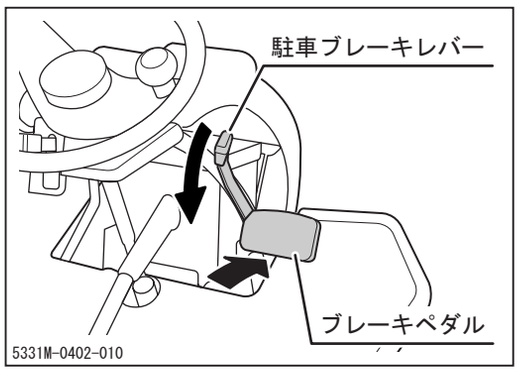
・エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」に回さないでください。スタータモータおよびエンジン破損の原因となります。

・5秒以上スタータモータを回さないでください。始動しない場合はメインスイッチを「切」に戻し、10秒以上休んでから再始動してください。

・冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンや油圧機器の寿命を縮めるおそれがあります。



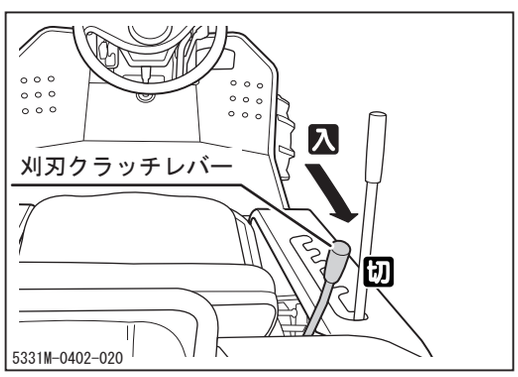
1. 燃料コックを「開」にします。



2. ブレーキペダルがロックされていることを確認します。ロックされていない場合は、駐車ブレーキレバーを引き下げながらブレーキペダルを踏み込み、ロックします。

アドバイス

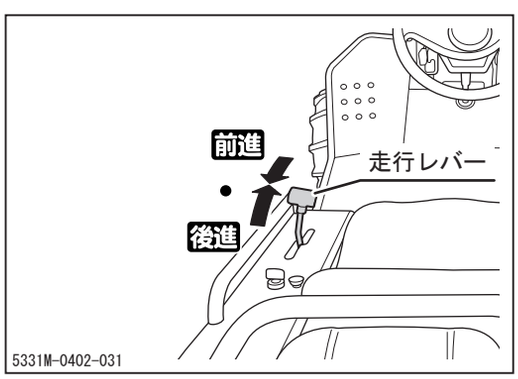
・本製品は始動安全装置を装備しているため、ブレーキペダルを踏み込まないとエンジンを始動できません。



3. 刈刃クラッチレバーが「切」にあることを確認します。

アドバイス

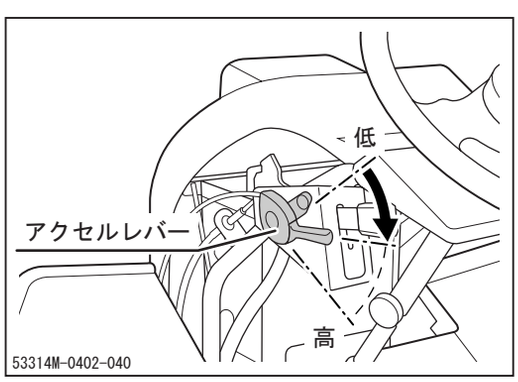
・本製品は始動安全装置を装備しているため、刈刃クラッチレバーが「切」にないとエンジンを始動できません。



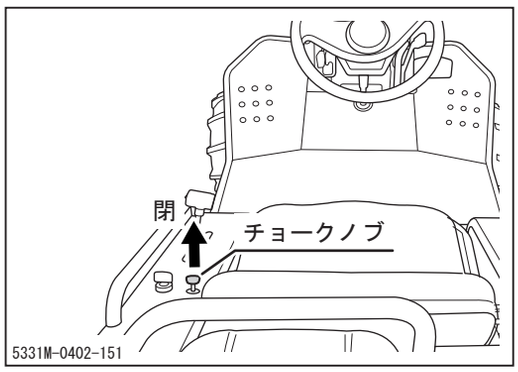
4. 走行レバーが「●（中立）」にあることを確認します。

アドバイス

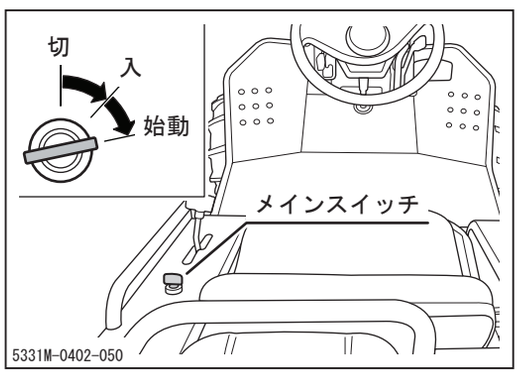
・ブレーキペダルを踏み込むと走行レバーが「●（中立）」になります。



5. アクセルレバーを「高」側に少し動かします。



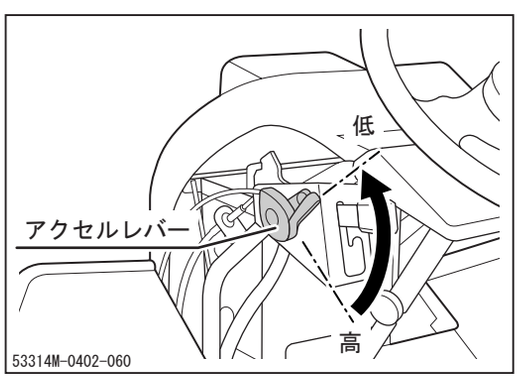
6. チョークノブを矢印の方向に動かし「閉」にします。



7. メインスイッチにキーを差し込みます。
8. メインスイッチを「始動」まで回し、エンジンを始動します。始動後はすぐにキーから手を離してください。キーは自動的に「入」に戻ります。

アドバイス

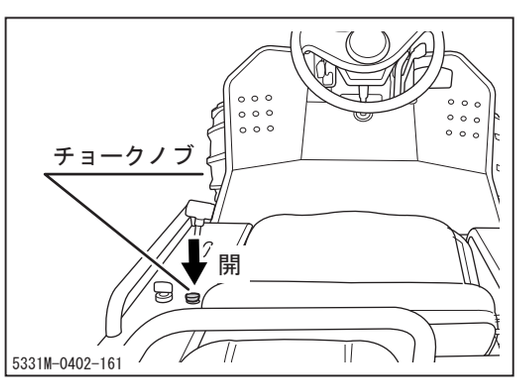
・頻繁な再始動はなるべく避け、エンジンを始動したら、しばらく連続運転をして、バッテリを充電するようにしてください。



9. アクセルレバーを「低」にします。

アドバイス

・購入後、最初の一週間（約40～50時間）はならし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。



10. チョークノブを矢印の方向に戻し「開」にします。
11. 約2分間、無負荷で暖機運転をします。

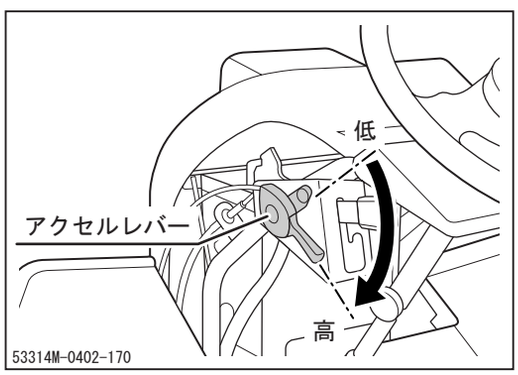
運転のしかた

⚠ 警　告

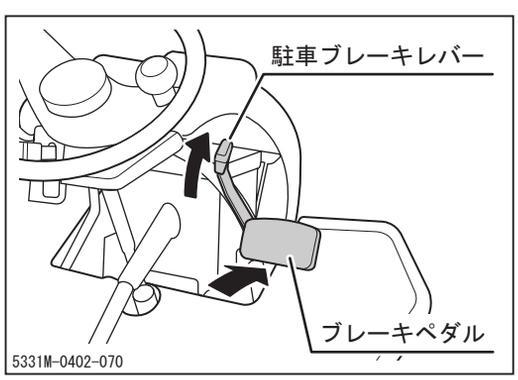
・運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

・発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は路面の勾配や状態に応じた速度で走行してください。

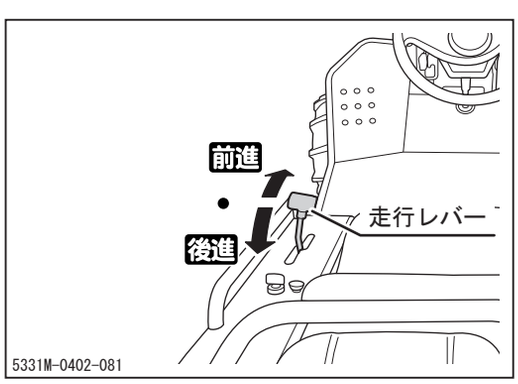
・走行中にメインスイッチを「切」にしないでください。



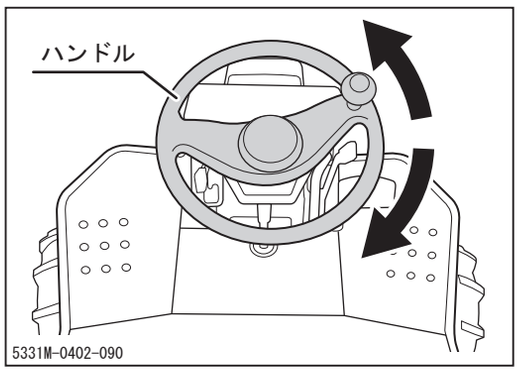
1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. アクセルレバーを「高」にして、エンジンの回転数を上げます。



3. ブレーキペダルを奥まで踏み込み、駐車ブレーキを解除します。



4. 走行レバーを進行方向に動かし、走行します。



5. 旋回をするときは、ハンドルを旋回したい方向に回し、旋回します。

アドバイス

・走行レバーを動かす量によって無段階に速度を調節することができます。

停止のしかた

⚠ 警 告

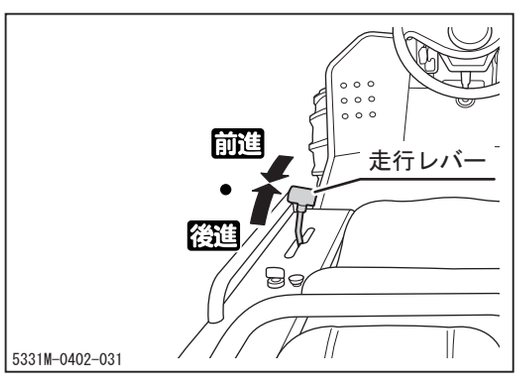
・急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

・停止時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には停止しないでください。

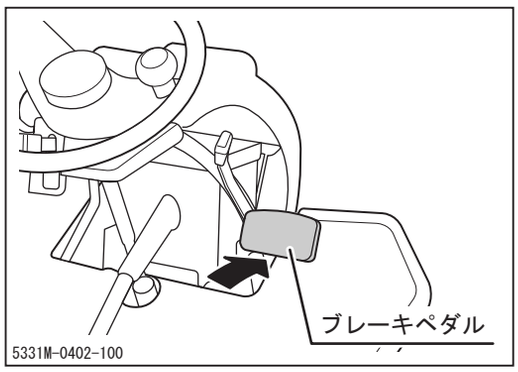
・燃えやすいものの近くには停止しないでください。

⚠ 注 意

・走行レバーを持ったままブレーキペダルを踏まないでください。ＨＳＴを破損するおそれがあります。



1. 走行レバーを「●（中立）」に徐々に戻し、速度を落とします。
2. 走行レバーから手を離します。



3. ブレーキペダルを踏み込んで、完全に停止します。

アドバイス

・ブレーキペダルを踏み込むと走行レバーが「●（中立）」になります。

後輪スリップ時の回避のしかた（デフロック仕様のみ）

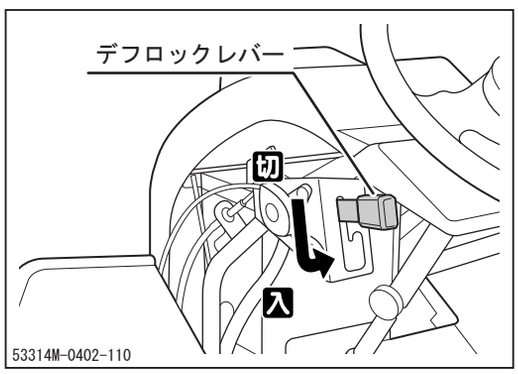
ぬかるみ等で後輪の片側がスリップする場合には、デフロックをすることでスリップを回避することができます。

⚠ 注 意

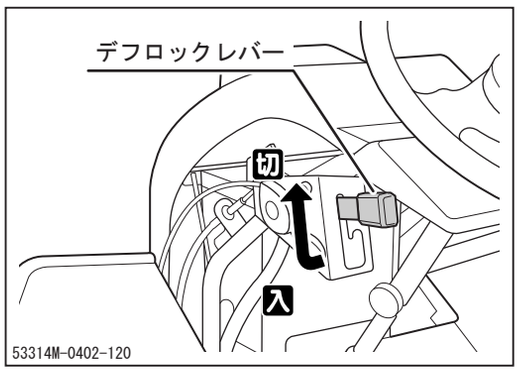
・デフロックの操作は停止してから行ってください。走行中に行うとデファレンシャルギヤを破損するおそれがあります。

・通常走行時は必ずデフロックを「切」にしてください。デファレンシャルギヤを破損するおそれがあります。

・デフロックが「入」のまま旋回をしないでください。



1. デフロックレバーを「入」にします。
2. ゆっくりと発進し、ぬかるみ等を脱出します。



3. ぬかるみ等を脱出したら、デフロックレバーを「切」にします。

駐車のしかた

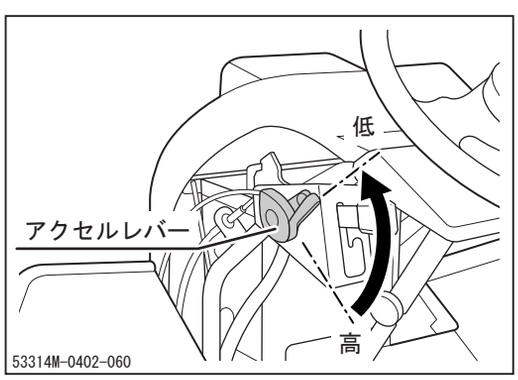
⚠ 警 告

・駐車時は必ず駐車ブレーキをかけ、キーを抜き取ってください。

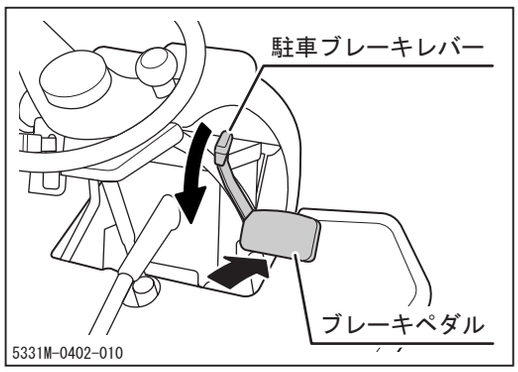
・駐車時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐車しないでください。

・燃えやすいものの近くには駐車しないでください。

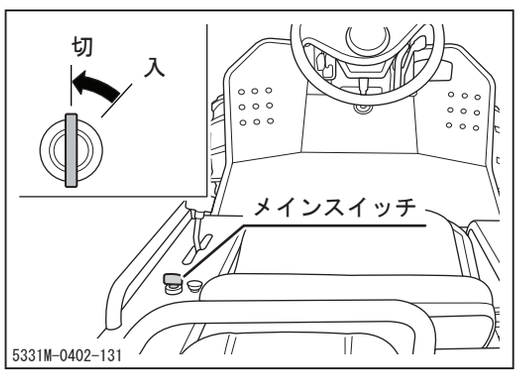
・傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、輪止めをしてください。



1. 車両を確実に停止します。
2. アクセルレバーを「低」にして、エンジンの回転数を下げます。



3. ブレーキペダルを奥まで踏み込み、ブレーキペダルをロックします。



4. メインスイッチを「切」にして、エンジンを停止し、キーを抜き取ります。

作業のしかた

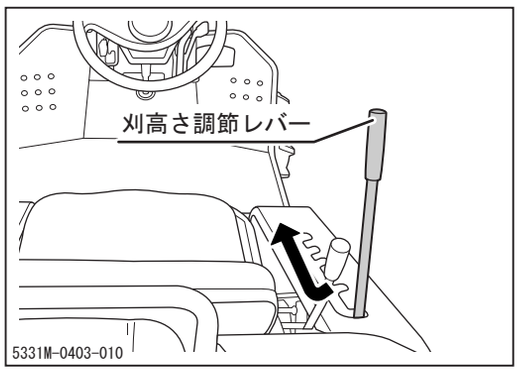
刈刃の点検

作業の前に刈刃の点検を行ってください。点検の方法は**「刈刃の点検・交換」**（☞43ページ）を参照してください。

刈高さ調節レバーの操作

アドバイス

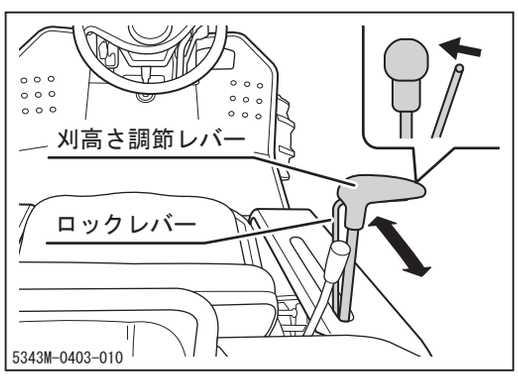
・刈高さ調節レバーが「移動」位置にあると、刈刃クラッチレバーが「入」になりません。
・刈高さの数値は目安です。地面の状態等により実際の刈高さと異なる場合があります。



刈高さの調節（CM141）

1. 刈高さ調節レバーを動かし、下記表を目安にして刈り高さを調節します。

刈高さ調節レバー位置	刈高さの目安
移動	移動用
5	65mm
4	50mm
3	35mm
2	20mm
1	0mm



刈高さの調節（CM142）

1. ロックレバーを引いて刈高さ調節レバーのロックを解除します。
2. ロックレバーを引いたまま、刈高さ調節レバーを任意の位置に動かします。
3. ロックレバーを離し、刈高さ調節レバーをロックします。

アドバイス

・刈高さ調節範囲：0～80mm

作業のしかた

⚠ 危　険

・刈刃の回転中に刈刃カバーの下に手足を入れないでください。

⚠ 警　告

・作業時は本製品の周辺に人を近づけないでください。必要な場合には、草刈作業中であることを掲示し、ガードロープを張る等してください。

・作業の前に必ず穴・溝・障害物等を確認し、十分に注意して作業を行ってください。

⚠ 警　告

・作業の前に必ず斜面の角度を確認し、15°以上の傾斜地では作業を行わないでください。

・作業は必ず乗車して行ってください。

・小石等の異物の飛散により、人や動物、農作物、建築物、自動車等へ被害を及ぼさないように十分に注意して作業を行ってください。

・刈刃カバーを開けたまま作業を行わないでください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。

・作業は前進で行ってください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。

・刈刃クラッチレバーは作業直前に「入」にし、作業時以外は必ず「切」にしてください。

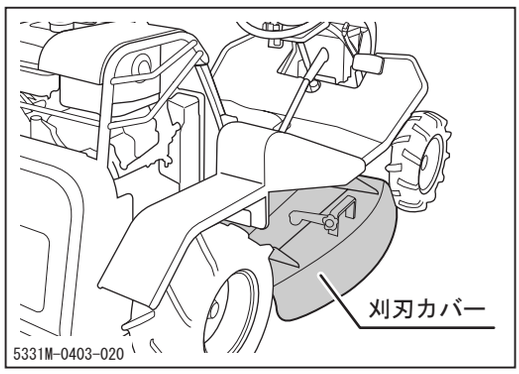
・溝や土手の端では作業を行わないでください。路肩が崩れるおそれがあります。特に降雨後や地震後は注意してください。

⚠ 注　意

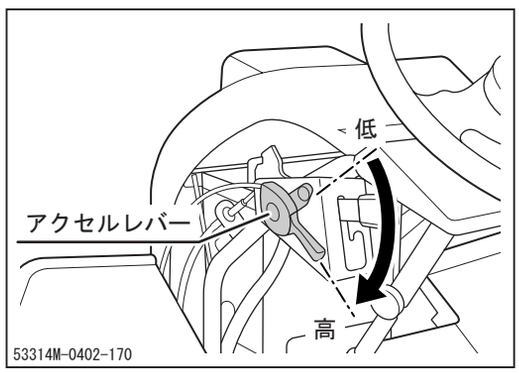
・ほこりの多い場所で作業を行う場合には、半日ごとにエアクリーナエレメントの清掃を行ってください。エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こします。

・刈刃が折損した場合には、ただちに新しい刈刃と交換してください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。

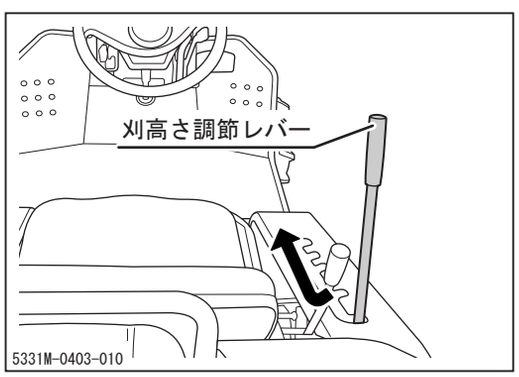
・刈刃に異物が巻き付いた場合には、ただちにエンジンを停止し、異物を取り除いてください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。



1. 左右の刈刃カバーが閉じていることを確認します。

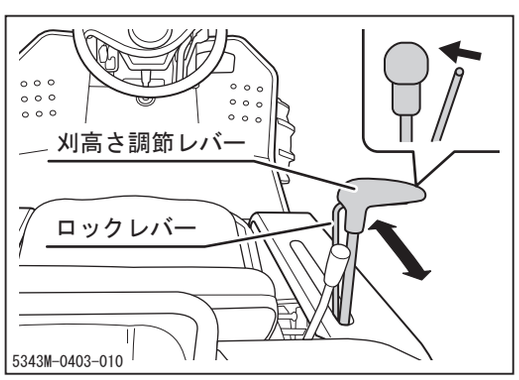


2. アクセルレバーを「高」にして、エンジンの回転数を上げます。



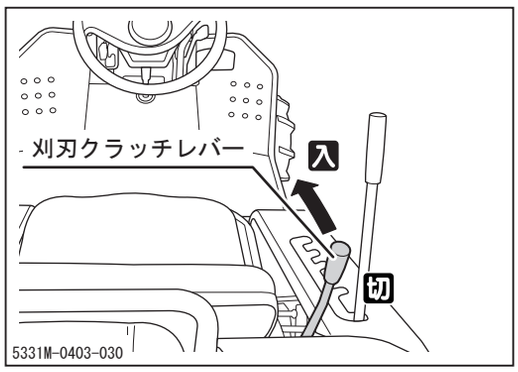
CM141の場合

3. 刈高さ調節レバーを動かし、刈高さを調節します。

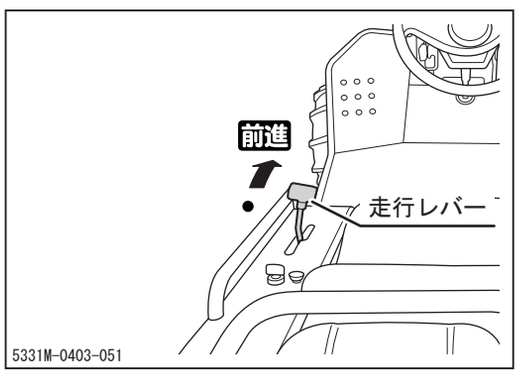


CM142の場合

3. ロックレバーを引いて刈高さ調節レバーを動かし、刈高さを設定します。



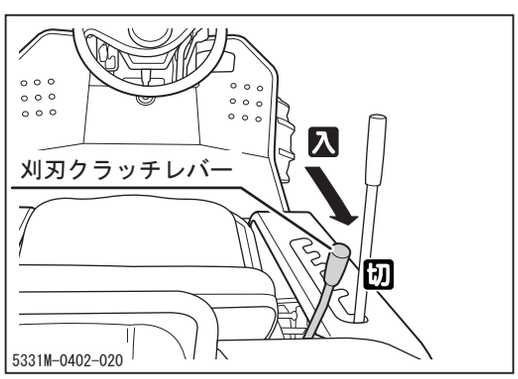
4. 刈刃クラッチレバーを「入」にして、刈刃を回転します。



5. 前進して作業を行います。

アドバイス

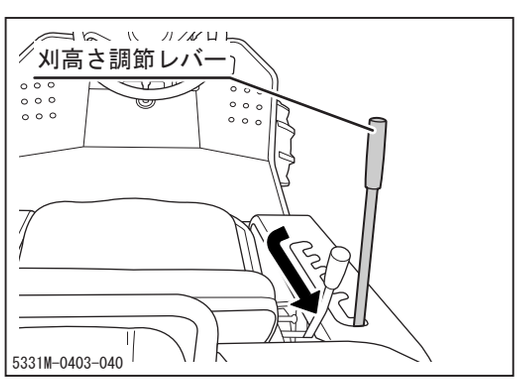
- 初めて作業を行う場合は、平坦地を選び、刈跡が少し重なるようにゆっくりと刈ってください。
- 負荷が大きい場合には、速度を落として作業をするか、2回に分けて刈ってください。
- 刈刃回転中にシートを離れると、刈刃自動停止装置が作動し、エンジンが停止します。



6. 刈刃を停止するときは刈刃クラッチレバーを「切」にして、刈刃を停止します。

アドバイス

- 刈刃クラッチレバーを「切」にすると刈刃にブレーキがかかり刈刃が停止します。



7. 刈高さ調節レバーを「移動」にします。

定期点検表

⚠ 注　意

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

エンジンの点検

日常点検

・エンジンオイルの量と汚れ
・エアクリーナエレメントの汚れ
・燃料、オイル等の漏れ
・各部ボルト緩み、破損
・異常振動、異常音

定期点検

項目	作業頻度
各部の清掃及び締付点検	8時間毎(毎日)（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
エンジンオイル点検・補給	8時間毎(毎日)（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
エアクリーナの清掃	8時間毎(毎日)（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
エンジンオイル交換	初回20時間目、２回目以降100時間毎
点火プラグの清掃	100時間毎
燃料ストレーナの清掃	200時間毎
エアクリーナエレメントの交換	200時間毎（販売店に依頼してください）
点火プラグ間隙	200時間毎（販売店に依頼してください）
吸排気弁隙間点検・調整	300時間毎（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
シリンダヘッドカーボン除去	500時間毎（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
気化器清掃	500時間毎（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
吸排気弁座点検すり合わせ	500時間毎（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
燃料ホース交換	2年毎
オーバーホール	1000時間毎（販売店に依頼してください）

車両の点検

・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。

・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
走行装置	タイヤホイール	タイヤの空気圧が規定値であること	○	○	○	☞39ページ
		タイヤおよびホイールに亀裂、損傷または偏磨耗がないこと		○	○	
		ホイールボルトに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		ホイールベアリング部にガタ、異音または異常発熱がないこと		○	○	
	トランスミッション	走行時に異音または異常発熱がないこと		○	○	
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	HST	作動が適正であること		○	○	
		油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	☞41ページ
		ペダルおよびレバー取付部に緩みまたはガタがないこと		○	○	
	Vベルト	走行Vベルトの張りが規定範囲内であること		○	○	☞42ページ
		走行Vベルトに著しい磨耗または損傷がないこと		○	○	☞42ページ
	ブレーキ	ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	☞43ページ
	駐車ブレーキ	駐車ブレーキ作動時に15°で停止状態を保持できること		○	○	
	ハンドル	ハンドルを左右に回してハンドルが確実に切れること	○	○	○	
	ロッドリンクワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと		○	○	
		連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと		○	○	
車体・安全装置等	車枠および車体	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	カバー	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		カバーの開閉またはロックに異常がないこと		○	○	
		取付ボルトに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	マーク	警告、操作銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
刈取装置	刈取装置	刈刃に亀裂、損傷がないこと	○	○	○	☞44ページ
		刈刃ステー、刈刃ピンに亀裂、損傷がないこと	○	○	○	☞44ページ
		刈刃カバーに亀裂、損傷がないこと	○	○	○	
		ゴムイタに損傷、脱落のないこと	○	○	○	
		刈刃Ｖベルトの張りが規定範囲内であること	○	○	○	☞46ページ
		刈刃Ｖベルトに著しい磨耗または損傷がないこと	○	○	○	☞46ページ
		刈刃ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	☞47ページ
		給脂が十分であること		○	○	☞31ページ
電装品	充電装置	正常に作動すること			○	
	バッテリ	電解液の量が規定範囲内であること		○	○	☞49ページ
		端子部に緩みまたは著しい腐食がないこと		○	○	
	配線	接続部に緩みがないこと		○	○	
		配線に損傷がないこと		○	○	

給油・給水一覧表

項目	補給（交換）時期	推奨品	容量
燃料	随時	自動車用無鉛ガソリン	7.0ℓ
エンジンオイル	補給　毎日点検し不足時に補給 交換　初回：20時間 2回目以降：100時間毎	ガソリンエンジンオイル API分類　SE級以上 SAE分類　10W-30	1.2ℓ
トランスミッションオイル	交換　初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	1.4ℓ
ＨＳＴオイル	交換　300時間毎	ガソリンエンジンオイル API分類　SE級以上 SAE分類　20W-50	1.1ℓ
刈刃ケースオイル	交換　初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	0.25ℓ
バッテリ液	補給　50時間毎に点検し不足時に補給	蒸留水	－

給脂一覧表

⚠ 注　意

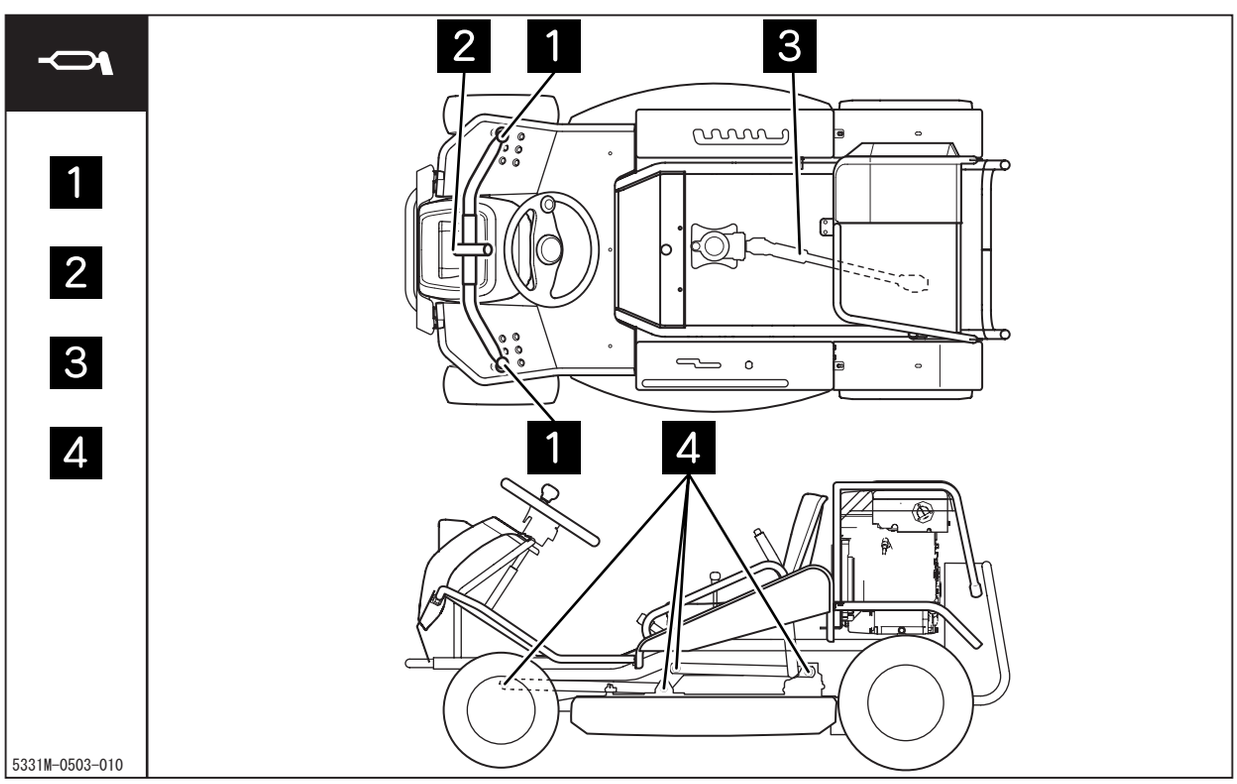
・給脂がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、作動が円滑に行われなくなるおそれがありますので、定期的に給脂を行ってください。

アドバイス

・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなった場合は、ただちに給脂を終了してください。
・エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒間給脂してください。

給脂一覧表

給脂箇所		補給時期	推奨品
1	前車軸両端	半年毎	シャーシグリース
2	前車軸中央	半年毎	シャーシグリース
3	刈刃ドライブシャフト	半年毎	シャーシグリース
4	刈刃リンク支点	半年毎	シャーシグリース



消耗部品（交換部品）一覧表

⚠ 注　意

・弊社製品のメンテナンスや部品交換を実施されるときは、必ず当社純正部品をご使用ください。純正部品以外をご使用になりますと、保証が適用されない場合もありますのでご注意ください。

項　　目	部品番号	交換インターバル	個数
エンジン			
エアクリーナエレメント	ZR20B32610H7	200時間毎またはシーズン毎	1
点火プラグ NGK BR-6HS	ZR0650140150	100時間毎に清掃し、不具合があれば交換	1
ワイヤ（アクセル）	53310105000	不具合があれば交換	1
燃料系統			
ホース（キャブレター燃料コック）	ZR0851062090	2年毎	1
ホース（燃料コック－燃料タンク）	ZRX851061491	2年毎	1
走行装置			
Vベルト SB-38(W400)（走行）	08521300038	不具合があれば交換	1
タイヤ AGR 3.50-7（前輪）	53042204000	不具合があれば交換	2
タイヤ 16×7.00-8（後輪）	53042301100	不具合があれば交換	2
チューブ（前輪）	53042205000	不具合があれば交換	2
チューブ（後輪）	42012543000	不具合があれば交換	2
ブレーキシューセット	73069901000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（ブレーキ）	53313305000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（デフロック）*1	53313402000	不具合があれば交換	1
クーリングファン	73061137000	不具合があれば交換	1
刈取装置			
刈刃セット（イアイ）	Z3314206010	不具合があれば交換	1
刈刃ピン*2	53314208000	不具合があれば交換	2
ウェーブワッシャ*2	53314207000	不具合があれば交換	2
ゴムイタ（刈刃カバー後）	53314125000	不具合があれば交換	1
ゴムイタ（刈刃カバー左後）	53314124000	不具合があれば交換	1
Vベルト SGLB35（刈刃駆動）	08521600035	不具合があれば交換	2
ブレーキシューセット（刈刃）	73059901000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（刈刃クラッチ）	53312415000	不具合があれば交換	1
刈刃ステー	53314203000	不具合があれば交換	1
電装品			
バッテリ 40B19R	37053901000	不具合があれば交換	1
ヒューズ 15A（緑・メイン）	09801003002	不具合があれば交換	1

*1　デフロック仕様

*2　刈刃セット（イアイ）に含まれます

カバーの開けかたおよび取り外しかた

⚠ 警　告

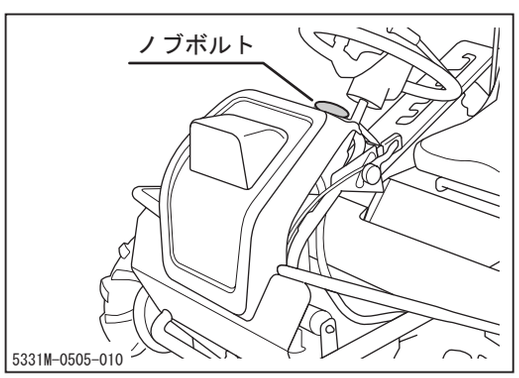
・作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

⚠ 注　意

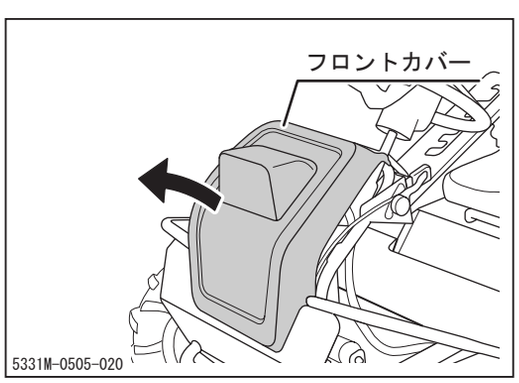
・カバーの開閉時および取り付け・取り外し時に手や指をはさまないように十分注意してください。

・点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後、必ず元に戻してください。

フロントカバーの取り外しかた

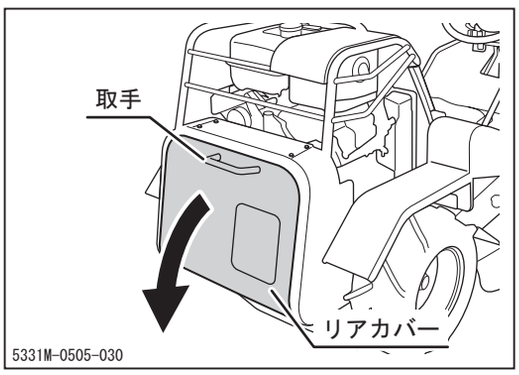


1.　ノブボルトを取り外します。

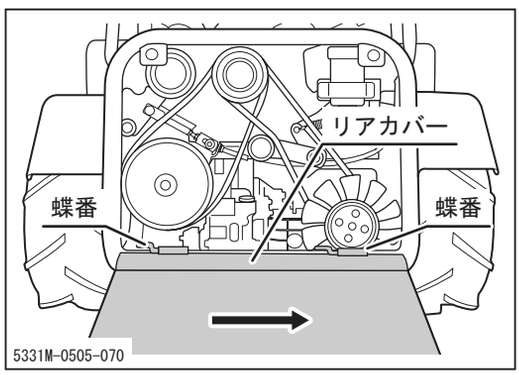


2.　フロントカバーを取り外します。

リアカバーの開けかた

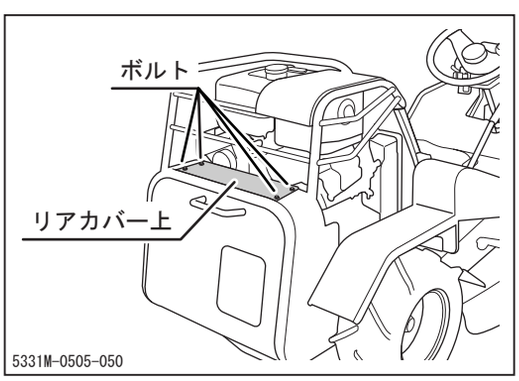


1. 取手を後方に引いてリアカバーを開けます。
2. 閉じるときはカバーを戻し、取手を押して確実にロックしていることを確認します。



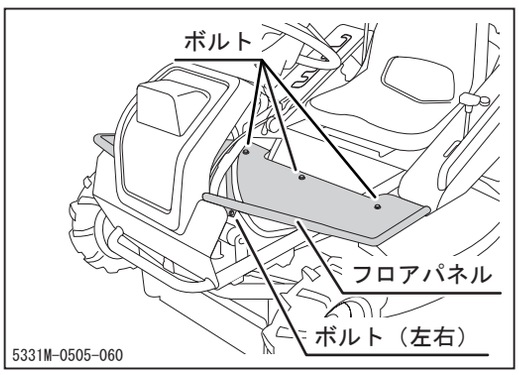
3. リアカバーが開いた状態で右へ動かすと蝶番が外れカバーを取り外すことができます。

リアカバー上の取り外しかた



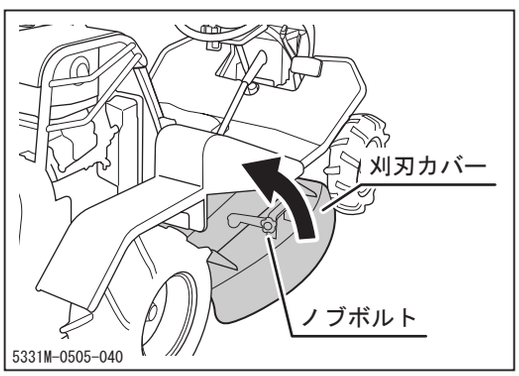
1. ボルト（４本）を取り外します。
2. リアカバー上を取り外します。

フロアパネルの取り外しかた



1. ボルト（５本）を取り外します。
2. フロアパネルを取り外します。

刈刃カバーの開けかた



1. ノブボルトを緩め、カバーを持ち上げます。
2. ノブボルトを締め付け、カバーを確実に固定します。

アドバイス

・刈高調節レバーが「移動」のときは、刈刃カバーは全開になりません。刈刃カバーを全開にするときは、刈高調節レバーを「3」より下にしてください。

エンジン

⚠ 警　告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・エンジン停止直後はエンジン各部およびエンジンオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。

・エンジンの整備時は火気を近づけないでください。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

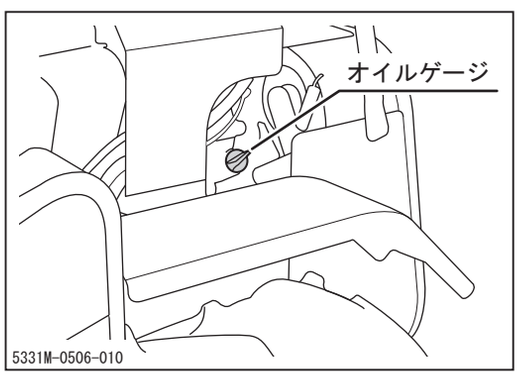
エンジンオイルの点検・補給・交換

⚠ 注　意

・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

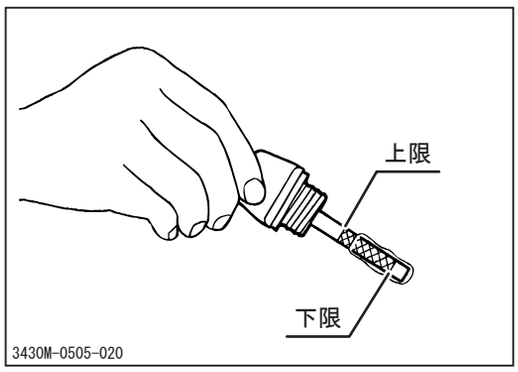
☝アドバイス

・オイル量はエンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。
・点検および作業時は付属の「エンジン取扱説明書」も参照してください。
・指定オイル、規定オイル量：☞30ページ

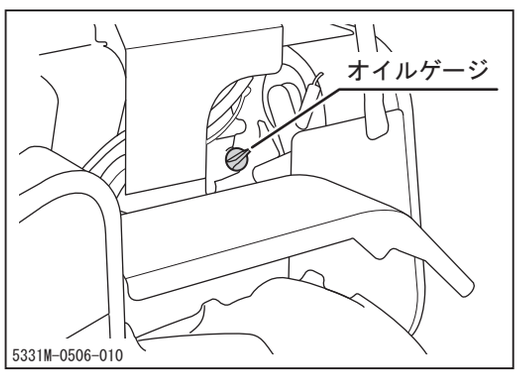


点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. オイルゲージを取り外し、オイルを拭き取ります。
3. オイルゲージを取り付け、再び取り外します。

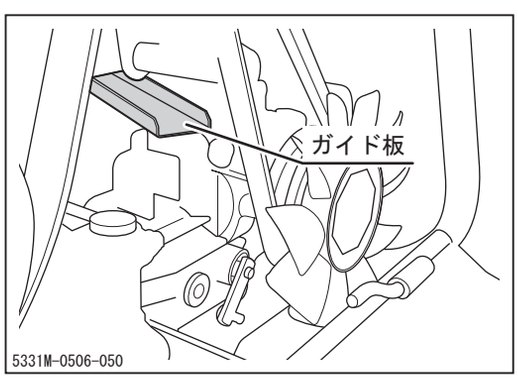


4. オイル量を目視点検し、オイルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。下限より少ない場合は補給します。
5. オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は交換します。
6. オイルゲージを取り付けます。



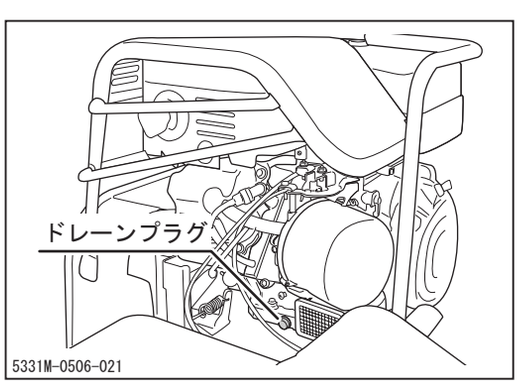
補給

1. オイルゲージを取り外します。
2. 給油口より指定のオイルを補給します。
3. オイル量を点検し、規定量入っていることを確認します。
4. オイルゲージを取り付けます。



交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. リアカバーを開け、容器をガイド板の下に置きます。
3. オイルゲージを取り外します。

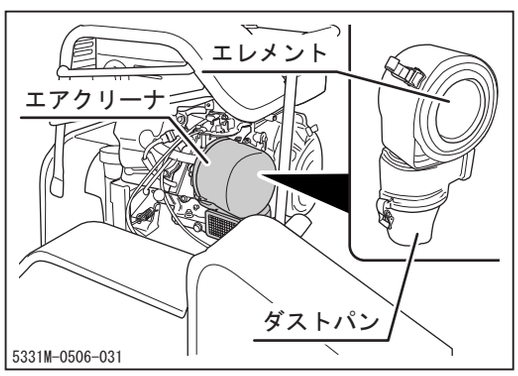


4. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
5. ドレーンプラグを取り付けます。
6. オイルを規定量補給します。
7. オイル量を点検し、規定量入っていることを確認します。
8. オイルゲージを取り付けます。
9. リアカバーを閉めます。

エアクリーナの清掃・交換

⚠ 注 意

・エレメントの清掃は毎日行ってください。エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こします。

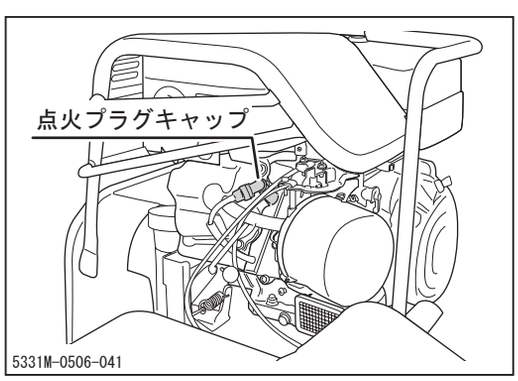


1. 付属の**「エンジン取扱説明書」**の指示に従って、エアクリーナエレメントとダストパンの清掃・交換を行います。

点火プラグの点検・清掃・交換

⚠ 注 意

・点火プラグキャップを取り外すときはキャップを持って取り外してください。コードを引っ張ると断線するおそれがあります。



1. 点火プラグキャップを取り外します。
2. 付属の**「エンジン工具」**または市販のプラグレンチで点火プラグを取り外します。
3. 付属の**「エンジン取扱説明書」**の指示に従って、点火プラグの点検・清掃・交換を行います。
4. 点火プラグを取り付けます。
5. 点火プラグキャップを取り付けます。

走行装置

⚠ 警　告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

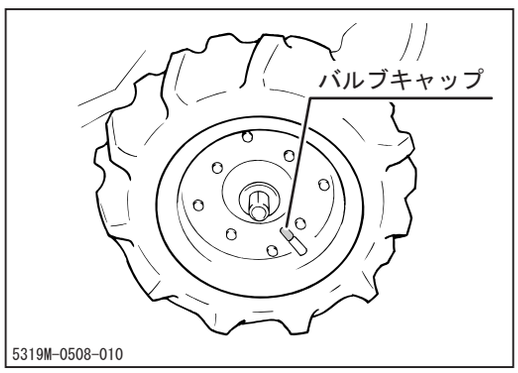
・エンジン停止直後は各部およびオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

タイヤ空気圧の点検・調整

⚠ 注　意

・タイヤは必ず指定の空気圧で使用してください。異常磨耗や損傷のおそれがあります。



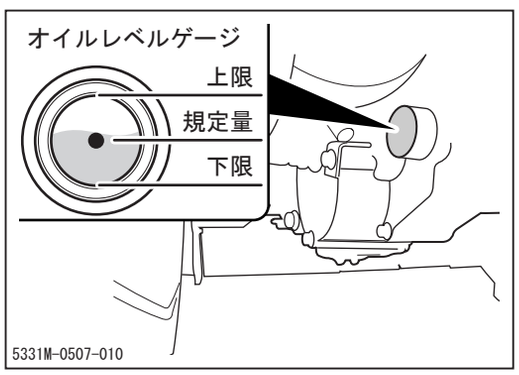
1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. バルブキャップを取り外します。
3. タイヤの空気圧を点検し、規定値でない場合は調整します。
4. バルブキャップを取り付けます。

	タイヤサイズ	空気圧 kPa(kgf/cm²)
前　　輪	AGR 3.50-7 (2PR)	110(1.1)
後　　輪	16×7.00-8 (2PR)	130(1.3)

トランスミッションオイルの点検・交換

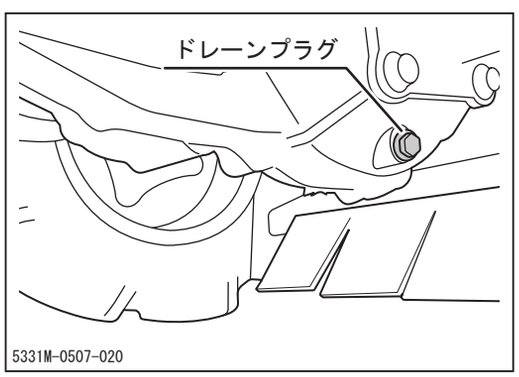
アドバイス

・指定オイル、規定オイル量：☞30ページ



点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. オイルレベルゲージを目し点検し、オイルの量および汚れを確認します。
3. オイル量が上限と下限の間にあることを確認します。不足している場合は補給します。
4. オイルの汚れがひどい場合は交換します。



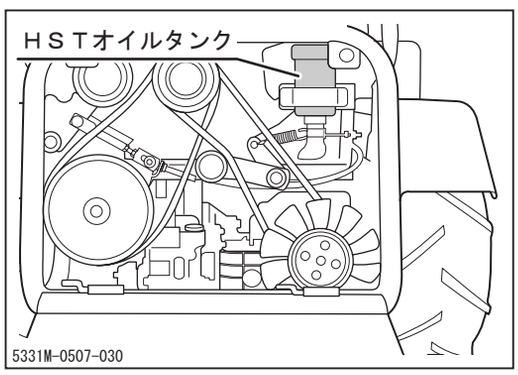
補給

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
3. リアカバーを開きます。
4. 給油プラグを取り外します。
5. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
6. ドレーンプラグを取り付けます。
7. 給油口より指定のオイルを規定量補給します。
8. 給油プラグを取り付けます。
9. リアカバーを閉めます。

ＨＳＴオイルの点検・補給

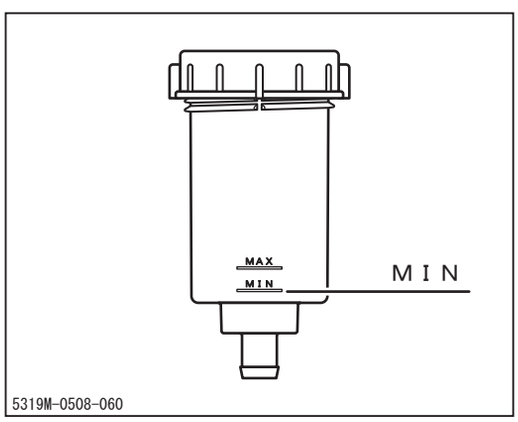
アドバイス

・オイル量の点検はエンジン始動前かＨＳＴオイルが十分冷えてから行ってください。エンジン停止直後はオイルが膨張しており、正確なオイル量が点検できません。
・オイルが十分冷えた状態で、「ＭＩＮ」の位置に油面があれば十分です。
・「ＭＡＸ」の位置以上までオイルを入れないでください。オイルが膨張してあふれることがあります。
・指定オイル、規定オイル量：☞30ページ



点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. リアカバーを開けます。
3. ＨＳＴオイルタンクのオイル量を目視点検し、レベルゲージの「ＭＩＮ」より少ない場合は補給します。
4. リアカバーを閉めます。



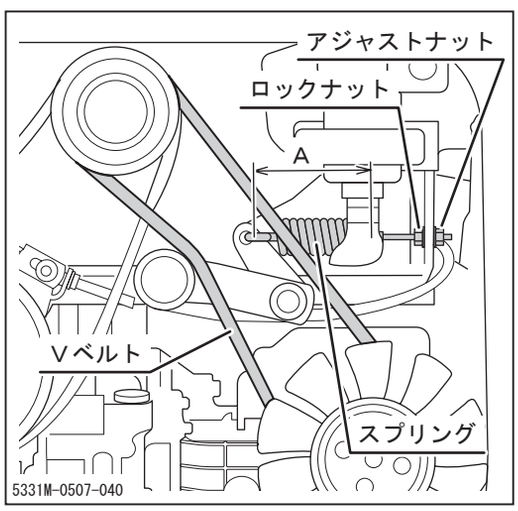
補給

1. リアカバーを開け、リアカバー上を取り外します。
2. 給油キャップを取り外します。
3. 給油口より指定のオイルを補給します。
   レベルゲージの「ＭＩＮ」の位置まで補給します。
4. 給油キャップを取り付けます。
5. リアカバー上を取り付け、リアカバーを閉めます。

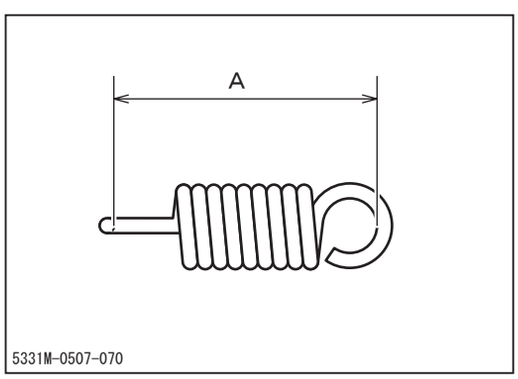
走行Ｖベルトの点検・調整

⚠ 注　意

・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップしベルトの寿命を縮めます。



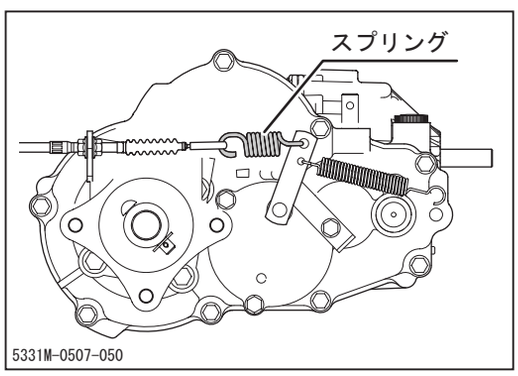
1. リアカバー上を取り外します。
2. Ｖベルトの張りを点検します。スプリングのフック内寸Ａが69～70㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合にはロックナットを緩め、アジャストナットで調整します。
3. Ｖベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。
4. リアカバー上を取り付けます。

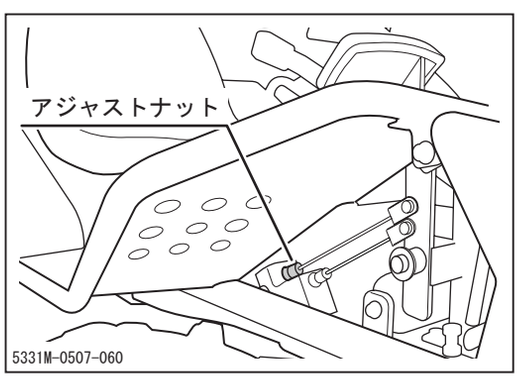


ブレーキの点検

⚠ 警　告

・ブレーキの効きが悪くなった場合は、すぐに点検・調整をしてください。





ブレーキ

1. ブレーキペダルをロックします。
2. フロアパネルを外します。
3. スプリングの伸びが約3mmであるか点検します。適正でない場合にはアジャストナットで調整します。調整は販売店に依頼してください。

刈取装置

⚠ 警　告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・エンジン停止直後は各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

刈刃・刈刃ステーの点検・交換

⚠ 警　告

・刈刃が折損した場合は、すぐに新しい刈刃と交換してください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。

・刈刃を交換する場合は、２枚とも交換をしてください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。

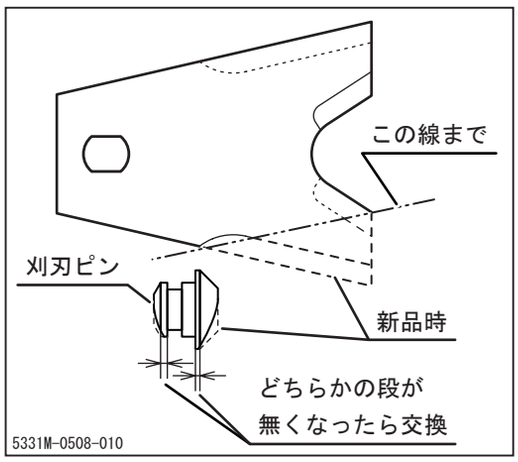
・刈刃を交換する場合は、刈刃ピンとウェーブワッシャも必ず新品に交換してください。刈刃ピンが磨耗して刈刃が飛散する可能性があります。

・刈刃の交換時は必ず刈刃ステーの磨耗も点検してください。磨耗限界を超えている場合や傷、変形が確認された場合は直ちに刈刃ステーを交換してください。刈刃ステーが破断し刈刃が飛散する可能性があります。

⚠ 注　意

・刈刃ならびに刈刃ステーは磨耗により鋭くとがることがあり、手などを怪我する可能性があります。刈刃や刈刃ステーの取扱時は必ず厚い手袋を着用し、慎重に取り扱ってください。

・刈刃の交換時は無理に力を掛けないようにしてください。急に刈刃が動き怪我をすることがあります。まずステーの周りの異物を取り除き、刈刃を回しながら動かしてください。

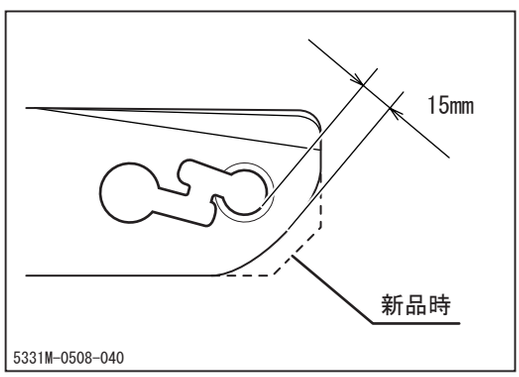


点検

1. 刈刃カバーを開けます。
2. 刈刃、刈刃ピンを点検し、通常の磨耗の場合は裏返して使用し、両縁とも磨耗したときは交換します。異常磨耗や変形、破損がある場合は新品に交換します。脱落がある場合は新品を取り付けます。

アドバイス

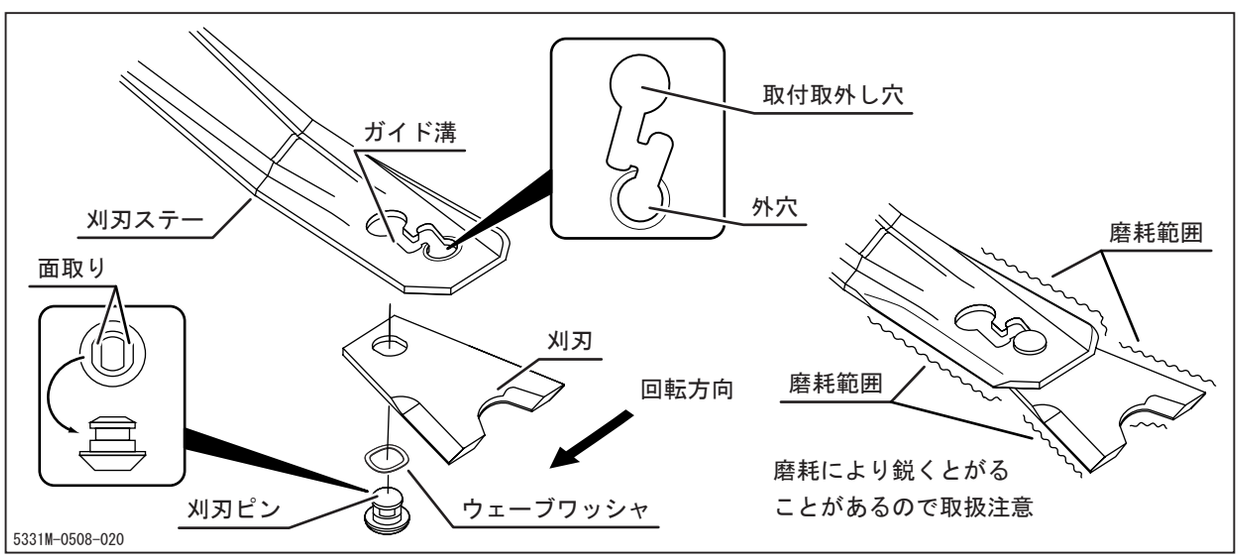
・磨耗限度
刈刃：刃の端からＶカットの頂点を結ぶ線まで
刈刃ピン：どちらかの段が無くなるまで



3. 刈刃ステーを点検し、磨耗や傷、変形がある場合は新品に交換します。
4. 刈刃カバーを閉めます。

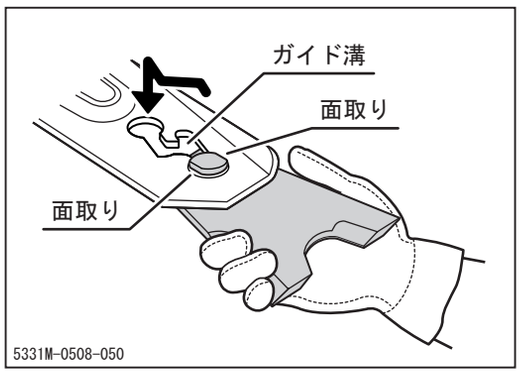
アドバイス

・磨耗限度：左図実線部まで（刈刃ステー縁からガイド溝までの最低間隔が15㎜以上あること）
・刈刃ステーの交換はキャニコム販売店へお問合せください。

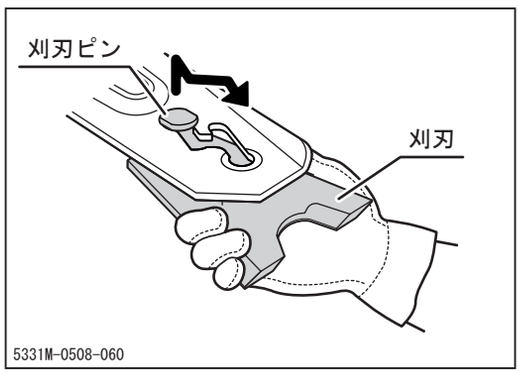


交換

1. 刈刃カバーを開けます。



2. 面取りの方向に注意しながら刈刃ピンをガイド溝に沿って取付取外し穴の方へ動かし、刈刃を取り外します。



3. 新しい刈刃ピンを刈刃に組んで取付取外し穴に入れ、面取りの方向に注意しながら刈刃溝に沿って外穴まで動かします。

アドバイス

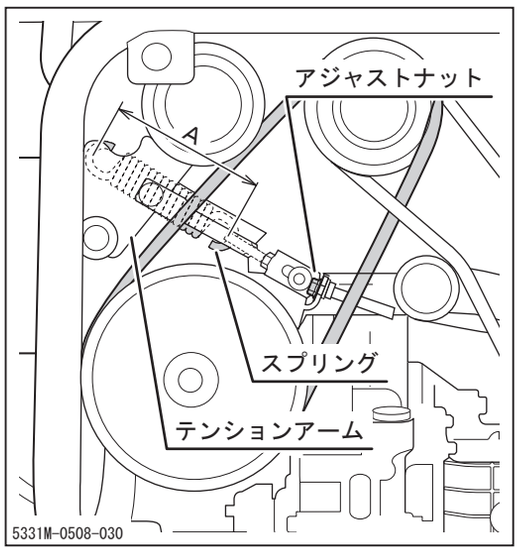
・刈刃ならびに刈刃ステーの前後縁は磨耗により鋭くとがることがあります。刈刃や刈刃ステーの取扱時は必ず厚い手袋を着用し、慎重に取り扱ってください。
・磨耗範囲：☞45ページ

刈刃Ｖベルトの点検・調整

⚠ 注 意

・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップし、作業能力が低下します。また、ベルトの寿命を縮めます。

1. リアカバーを開きます。
2. 刈高さ調節レバーを「5」(CM141)または「80」(CM142)にします。
3. 刈刃クラッチレバーを「入」にします。
4. Ｖベルトの張りを点検します。スプリングのフック内寸Ａが112～113㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合にはアジャストナットで調整します。



5. Vベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。
6. 刈刃クラッチレバーを「切」にします。
7. 刈高さ調節レバーを「移動」にします。
8. リアカバーを閉めます。

アドバイス

・スプリングはテンションアームの裏側にあります。

刈刃ブレーキの点検・調整

⚠ 危　険

・刈刃の回転中に刈刃カバーの下に手足を入れないでください。

⚠ 警　告

・点検時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

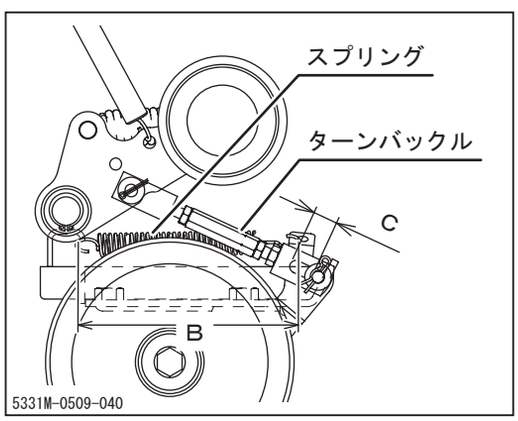
・点検は必ず乗車して行ってください。

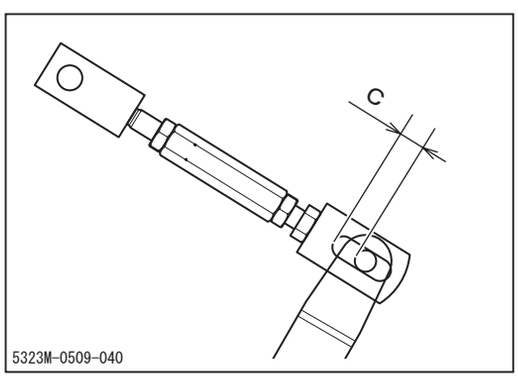
・刈刃カバーを開けたまま点検を行わないでください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。

・刈刃ブレーキの効きが悪くなってきた時はすぐに刈刃ブレーキの点検を行ってください。

点検

1. エンジンを始動します。
2. アクセルレバーを「高」にして、エンジンの回転数を上げます。
3. 刈高さ調節レバーを「5」(CM141)または「80」(CM142)にします。
4. 刈刃クラッチレバーを「入」にして、刈刃を回転します。
5. 刈刃クラッチレバーを「切」にして、刈刃が5秒以内に停止することを確認します。停止しない場合は調整します。
6. 刈高さ調節レバーを「移動」にします。
7. アクセルレバーを「低」にして、エンジンの回転数を下げます。
8. 車両を駐車し、エンジンを停止します。





調整

1. リアカバー上、リアカバー下を取り外します。
2. 刈刃クラッチレバーが「切」の状態でC部の遊びが約5mmになるようにターンバックルを調整します。
3. リアカバー上、リアカバー下を取り付けます。
4. 再度点検します。刈刃が5秒以内で停止しない場合は販売店に点検を依頼してください。

電装品

⚠ 警　告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・ぬれた手で作業を行わないでください。感電のおそれがあります。

バッテリ液の点検・補給・充電

⚠ 警　告

・バッテリ液量が「LOWER」レベル以下になったままで使用または充電をしないでください。バッテリの寿命を著しく縮めます。また、バッテリが爆発するおそれがあります。

・バッテリ液（希硫酸）が衣服や皮膚に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。目に入った場合にはすぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

・バッテリに火気を近づけないでください。

・バッテリの電極に触れないでください。感電のおそれがあります。

・バッテリの充電は車両から取り外して行ってください。

・バッテリの清掃は湿った布で行ってください。乾いた布で清掃すると、静電気で引火爆発するおそれがあります。

⚠ 注　意

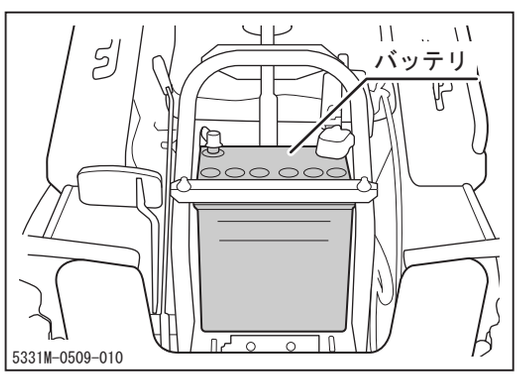
・バッテリ液を補給する時は、バッテリ液量が「UPPER」レベル以上になるまで補給をしないでください。バッテリ液がもれて塗装面が傷ついたり、部品が腐食したりするおそれがあります。

・バッテリを充電するときは、使用する充電器の取扱説明書の指示に従ってください。

⚠ 注 意

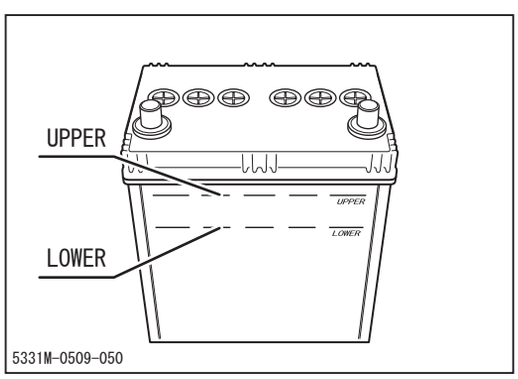
・バッテリ端子を取り外すときは（－）端子から取り外し、取り付けるときは（＋）端子から取り付けてください。（＋）端子と車体の間に工具等が接触するとショートします。

・バッテリ端子をバッテリに取り付けるときには（＋）と（－）を間違えないでください。また、端子はしっかりと取り付け、配線がまわりに接触しないようにしてください。

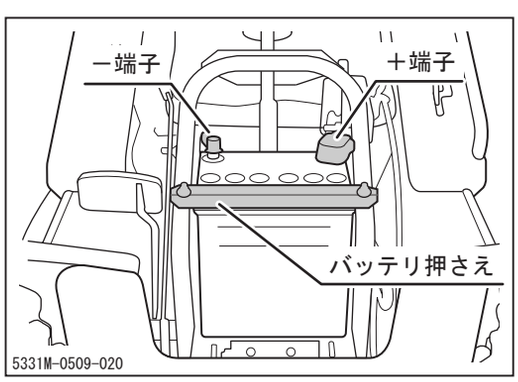


点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. フロントカバーを取り外します。

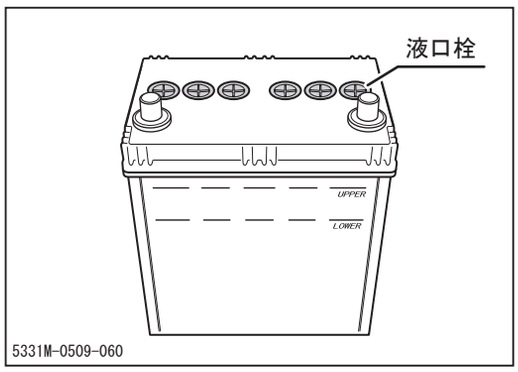


3. バッテリ液量が「UPPER」レベル（以下U.L）と「LOWER」レベル（以下L.L）の間にあることを確認します。
4. バッテリ液量が「L.L」に近い場合は補給します。
5. フロントカバーを取り付けます。

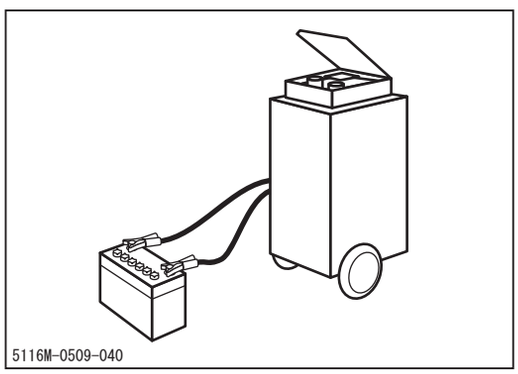


補給

1. フロントカバーを取り外します。
2. バッテリの（－）端子を取り外します。
3. バッテリの（＋）端子を取り外します。
4. バッテリ押さえを取り外しバッテリを車体から取り外します。



5. 液口栓を取り外します。
6. 蒸留水を「U.L」まで補給します。
7. 液口栓を取り付けます。
8. バッテリを取り付けます。
9. バッテリの（＋）端子を取り付けます。
10. バッテリの（－）端子を取り付けます。
11. バッテリ押さえを取り付けます。
12. フロントカバーを取り付けます。



充電

1. フロントカバーを取り外します。
2. バッテリを取り外します。
3. 充電器の取扱説明書に従い、バッテリを充電します。
4. 充電が終了したらバッテリを車両に取り付けます。
5. フロントカバーを取り付けます。

ヒューズの点検・交換

⚠ 注　意

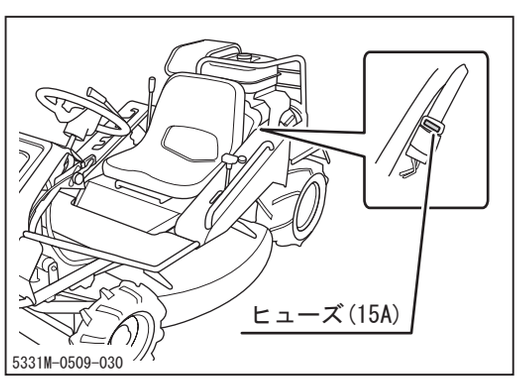
・ヒューズが切れているときは、原因を調査し、修理をしてから交換してください。

・ヒューズは指定容量のものと交換してください。電装品が故障するおそれがあります。

アドバイス

・メイン：15A

・指定ヒューズ：☞32ページ



1. ヒューズを取り外し、ヒューズが切れていないかをチェックします。切れている場合にはヒューズを交換します。
2. ヒューズを取り付けます。

使用後のお手入れ

刈取装置の清掃

⚠ 危 険

・刈刃の回転中に刈刃カバーの下に手足を入れないでください。

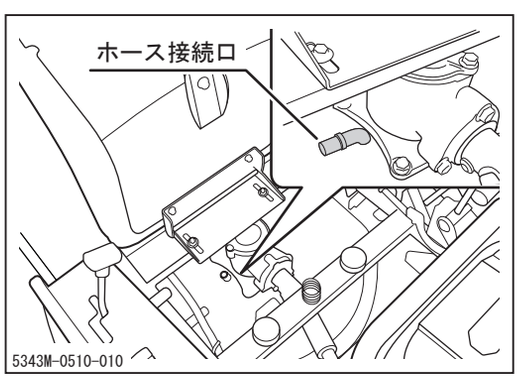
⚠ 警 告

・作業時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

・作業は必ず乗車して行ってください。

・刈刃カバーを開けたまま清掃を行わないでください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。

・刈刃クラッチレバーは作業直前に「入」にし、作業時以外は必ず「切」にしてください。



1. 車両を駐車します。
2. 刈高さ調節レバーを「3」か「4」（CM141）、または約50mm（CM142)にします。
3. シートを上げます。
4. ホース接続口にホースを取り付け、水を流します。
5. シートを下げて乗車し、エンジンを始動します。
6. アクセルレバーを「高」にして、エンジンの回転数を上げます。
7. 刈刃クラッチレバーを「入」にして、刈刃を回転し、刈取装置内部を清掃します。
8. 清掃が終わったら刈刃クラッチレバーを「切」にして、刈刃を停止します。
8. アクセルレバーを「低」にして、エンジンの回転数を下げます。
9. エンジンを停止します。
10. 水を止め、シートを上げてホースを取り外します。
11. シートを下ろします。
12. 刈高さ調節レバーを「移動」にします。

アドバイス
・刈高さを低くしすぎると刈刃と地面が接触するおそれがあります。
・石の無い平坦な場所で作業してください。
・ホースは内径φ15㎜かφ18㎜（一般家庭用ホースのサイズ）のものをご使用ください。

通常使用後のお手入れ

⚠ 警　告

・使用後は、車両に堆積した草等をきれいに取り除いてください。火災のおそれがあります。

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

1. 車両に堆積した草や付着した泥等を取り除きます。
2. 屋外に保管する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

1. 車両に堆積した草や付着した泥等を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面または角材の上に駐車します。
3. 屋外に保管する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

長期保管のしかた

⚠ 警 告

・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

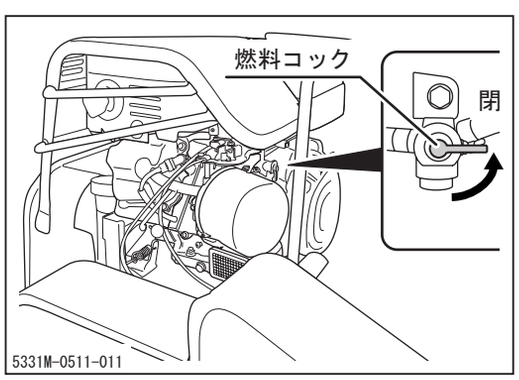
⚠ 注 意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。

1. 車両を駐車します。
2. 車両に堆積した草や付着した泥等を取り除きます。
3. **「定期点検表」**（☞28ページ）に従って各箇所の点検を行い、不具合があれば整備します。
4. 鋼板部分を油のしみた布で清掃し、給脂箇所に給脂します。
5. エンジンオイルを交換します。
6. エアクリーナエレメントを清掃します。



7. 燃料コックを「閉」にし、キャブレターのドレンプラグより燃料を抜き取ります。
8. タイヤの空気圧を標準より高めにして、前輪の前後に輪止めをします。
9. 車両からバッテリを取り外し、バッテリ液の点検・補給・充電を行います。
10. エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

アドバイス

・バッテリは使用しなくても放電してしまいます。約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリを長持ちさせることができます。

・エンジンの長期保管の詳細については付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

不具合診断表

・不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店（当社センター）へ連絡してください。

・下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない処置内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	エンジンがかからないまたはかかりにくい	燃料切れ	→補給する	14ページ
		燃料コックが開いていない	→燃料コックを開く	16ページ
		燃料不良	→燃料を交換する	
		燃料の吸い込みすぎ	→時間をおいて始動する	
		バッテリの容量不足	→バッテリ液を補給する →バッテリを充電する →バッテリを交換する	49ページ 49ページ
		バッテリ端子の外れまたは断線	→接続または修理する	
		エンジンオイルの不足または品質不良	→補給または交換する	36ページ
		点火プラグの汚れ等による着火不良	→清掃または交換する	38ページ
		その他（上記以外）	→**「始動のしかた」**の手順に従って再始動を試み、始動不可能の場合は販売店へお問い合わせください	16ページ
	すぐにエンストする	燃料切れ	→補給する	14ページ
	エンジンが突然停止する	燃料切れ	→補給する	14ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	38ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

6 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	出力または加速不足	燃料不良	→交換する	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	38ページ
		走行Ｖベルトの緩み	→調整する	42ページ
		過負荷	→負荷を減らす（二度刈りを行う）	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする		→販売店へお問い合わせください	
	エンジンオイルの消費が早い		→販売店へお問い合わせください	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	36ページ
		エンジン冷却口、冷却フィンの目詰まり	→清掃する	
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	38ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	38ページ
		チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	18ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	白煙が多量に出る（排気状態の不良）	燃料不良	→交換する	
		エンジンオイルが入り過ぎている	→点検後オイル量を調整する	36ページ
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	36ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
走行装置関連	走行レバーを動かしても車両が動かない	ＨＳＴオイルの不足	→補給する	41ページ
		駐車ブレーキが効いている	→駐車ブレーキを解除する	
		走行Ｖベルトの緩み	→調整する	42ページ
		その他（上記以外）	→**「運転のしかた」**の手順に従って運転を試み、走行不可能の場合は販売店へお問い合わせください	19ページ
	走行レバーを中立にしても車両が動く	ＨＳＴの中立が狂っている	→販売店へお問い合わせください	

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
走行装置関連	旋回が円滑に行えない	タイヤ空気圧の調整不良	→調整する	39ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	直進性が悪い	タイロッドの調整不良	→販売店へお問い合わせください	
制動装置関連	ブレーキおよび駐車ブレーキの効きが悪い	調整不良	→調整する（販売店へお問い合わせください）	
		ブレーキドラム内に水が浸入	→何回かブレーキをかけて中の水を乾かす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
車体関連	車体の異常振動	タイヤ空気圧の調整不良	→調整する	39ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
刈取装置関連	刈刃が回転しない	ベルト切れ	→交換する	
	刈刃が停止しない	刈刃ブレーキの調整不良	→調整する	
		刈刃ブレーキの消耗	→交換する	
	ベルトが滑る	刈刃Ｖベルトの緩み	→調整する	46ページ
		刈刃Ｖベルトの消耗	→交換する（販売店へお問い合わせください）	46ページ
		刈刃カバー内に草がたまっている	→清掃する	52ページ
	刈刃を回転させると異常振動が発生する	刈刃、刈刃ステーの欠損または脱落	→交換する	44ページ
		異物を巻き込んでいる	→異物を取り除く	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	刈った草がうまく放出されない	草が湿っている	→草が乾燥してから作業する	
		草が長い	→刈高さを高くして2度刈りをする	
		刈高さが低い	→刈高さを高くする	
		エンジン回転数が低い	→最高回転数にする	
		作業速度が速い	→作業速度を遅くする	

6 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
刈取装置関連	刈り残しがある	草が長い	→刈高さを高くして2度刈りをする	
		エンジン回転数が低い	→最高回転数にする	
		作業速度が速い	→作業速度を遅くする	
		刈刃の消耗、破損	→交換する	
		刈刃カバー内に草がたまっている	→清掃する	52ページ
	土削りがある	刈高さが低い	→刈高さを高くする	
		地形に起伏がある	→刈高さを高くする	
		刈刃および刈刃ステーの曲がり	→交換する	
	刈取作業負荷が大きい	エンジン回転数が低い	→最高回転数にする	
		作業速度が速い	→作業速度を遅くする	
		刈刃軸に草が巻き付いている	→清掃する	

トラックへの積み降ろし要領

⚠ 警　告

・トラックは平坦な場所に停めてパーキングブレーキをかけ、必ず輪止めをしてください。

・作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。

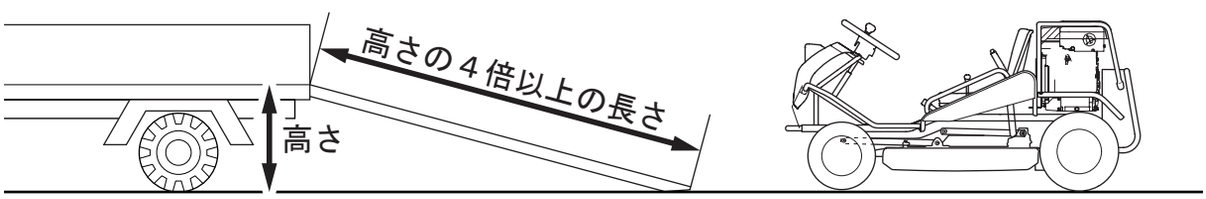
・アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（タイヤ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。

・アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。

・前進でゆっくりと積み込んでください。

・アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。

・輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。



5331M-0701-010

1. トラックを平坦な場所に停めてパーキングブレーキをかけ、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. スロットルレバーを「低速」にし、前進でゆっくりと積み込みます。
   その際、刈高さ調節レバーを「移動」にし、アユミ板や荷台にぶつけないように注意してください。
4. **「駐車のしかた」**（☞22ページ）の手順に従い、車両を駐車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。

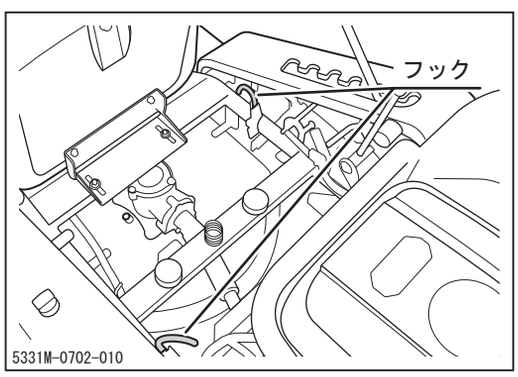
クレーン等による吊り上げ要領

⚠ 警 告

・クレーンの操作および玉掛けには資格が必要です。資格のない人は作業を行わないでください。

・吊り上げに使用するワイヤーロープ（またはチェーン等）は、車両の重量に対して十分強度のあるものを使用してください。

・車両を吊り上げるときは、重心位置およびバランスに注意してください。



1. シートを持ち上げます。
2. フックにワイヤーロープを掛け、車両を吊り上げます。

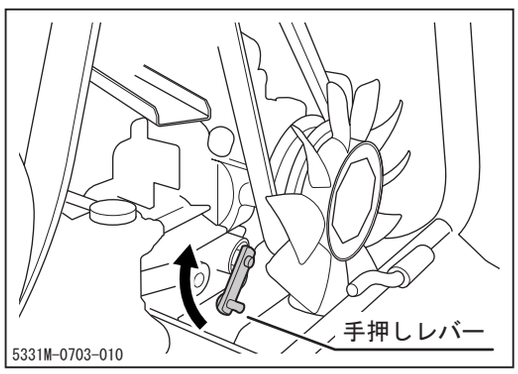
手押し要領

⚠ 警 告

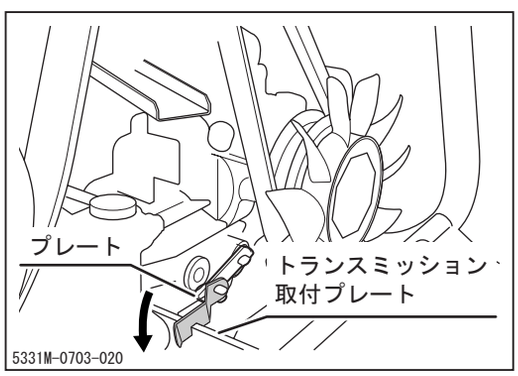
・車両の手押しは緊急時以外、絶対に行わないでください。手押しを行うときはメインスイッチを「切」にしてキーを抜いてから行ってください。

・手押しを行うときは必ずハンドルを操作する人と手押しレバーを操作する人の二人で行ってください。

・傾斜地の手押しは危険ですので行わないでください。



1. リアカバーを取り外します。
2. 手押しレバーを引き上げ車両を押します。



3. 付属のプレートを手押しレバーのピンに通しトランスミッション固定プレートに引っ掛けます。